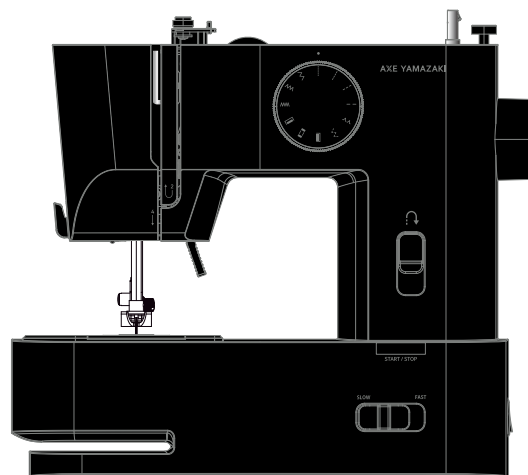


AXE YAMAZAKI

取扱説明書 保証書付き

モデル エムエム

MODEL: MM-20 シリーズ



- 「取扱説明書」をよくお読みのうえ、この製品を安全にご使用ください。
- ご使用の前に「安全上のご注意」（1～2P）を必ずお読みください。
- お読みにになった後はいつでも見ることができるよう、必ず保管してください。

もくじ

安全上のご注意	1
取り扱いのお願い	2
各部の名まえ	3
付属品	5
スマホスタンド / 針ガード	6
電源を入れる	7
模様選択	9
スピード調節ツマミ	9
押え上げレバー	10
押えの取りはずしかた・取り付けかた	10
押えホルダーの取りはずしかた・取り付けかた	11
ボビンの取り出しかた	11
下糸の準備	12
上糸の準備	19
下糸の引き上げかた	25
縫ってみる	28

糸調子の合わせかた	36
糸、針、布の関係	38
返し縫い	39
フリーアーム	39
厚い布や段差を縫う	40
縫い方向の変えかた	41
ジグザグ縫い／縁かがり縫い	42
伸縮布を縫う	42
まつり縫い（裾上げ）	43
ボタンホール縫い	45
お手入れ	48
困ったときは	53
仕様	55
修理サービス要領	56
お問い合わせまたはご相談先	56
フットコントローラー（別売品）	57
保証書	終

安全上のご注意

ご使用の前に「取扱説明書」を必ずお読みになり、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。
以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。

以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

●このミシンは日本国内向け家庭用です。

For use in JAPAN only. 国外での使用および職業用としてご使用になった場合の保証はできません。

●仕様および外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。

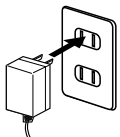
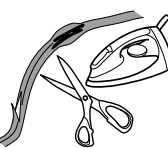
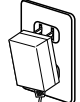
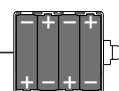
●取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

●取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。

 警告	この表示を無視して誤った使いかたを すると、人が死亡または重傷を 負う恐れがある内容を示しています。	 注意	この表示を無視して誤った使いかたを すると、人がケガをしたり財産に損害が 生じる恐れがある内容を示しています。
---	--	---	---

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険性を促す記号	行為を「禁止」する記号	行為を「指示」する記号
   火災の原因になります 感電の危険性があります ケガの危険性があります	  禁止 分解禁止	  必ずすること 電源プラグを抜く

 警告	  死亡、火災、感電の恐れがあります。
火災・感電の原因となります。 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では絶対に使用しないでください。 AC100V 50/60Hz  コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ加工はしないでください。  傷付いたり、溶けて線がむき出しになったコードを使用しないでください。 *コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正部品をお買い求めください。  コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。  延長コードや分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。 	火災・感電の原因となります。 販売店・サービスセンターにご連絡ください。 ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源を切り AC アダプターを抜いてください。  発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源を切り、AC アダプターを抜いてください。  落としたり正常に作動しないときは AC アダプターを抜いてください。  AC アダプターをコンセント（家庭用電源 / 100V）にしっかりさし込んでください。  付属の AC アダプターはこのミシン専用です。他の用途に使用したり、付属品以外の AC アダプターを使用しないでください。  ミシンの中に電池を長期間入れっぱなしにしないでください。電池同士で通電し腐食します。 

 注意    ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。	
 	- 電源を切るときは、AC アダプターを持ってコンセントを抜きさししてください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。 - ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。 - 交換した針を放置しないでください。 - お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。 - 針を交換するときは、AC アダプターおよび電池を抜いてください。作業途中にミシンが動く恐れがあり、ケガの原因になります。 - 屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。
	- コードは巻き付けしないでください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。 - 濡れた手で AC アダプターを抜きさししないでください。感電の原因になります。 - ミシンを使用しないときやミシンから離れたり使用を中断するときは AC アダプターおよび電池を抜いてください。絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になります。 - 不安定な場所に置かないでください。 - 動作中に、はずみ車・針・天びんに手を触れないでください。手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。 - 曲がった針は使用しないでください。針が折れ、ケガの原因になります。 - すべり板を開けたまま操作しないでください。 - 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。
 	- 幼児の手が届かない場所に保管してください。針や押えなどの突起でケガの原因になります。 - 糸をセットするときやミシンの手入れを行うときは AC アダプターおよび電池を抜いてください。作業途中にミシンが動く恐れがあり、ケガの原因になります。
  	- 電池を誤使用すると発熱・破裂・液漏れ・発火の恐れがあります。以下に注意してください。 1. 二次電池（充電式電池）またはマンガン電池は、絶対に使用しないでください。 2. 古い電池と新しい電池、いろいろな種類の電池を混ぜて使用しないでください。 3. +-(プラスマイナス)を正しくセットしてください。 4. 使用後は、必ず電源スイッチを切り、電池をはずしてください。 5. ショートさせたり充電・分解・加熱・火の中に入れたりしないでください。 6. 万一、電池から漏れた液が目に入ったときはすぐに大量の水で洗い、医師に相談してください。皮膚や服に付いたときは水で洗ってください。 7. 破棄するときは、自治体の廃棄物処理の指示に従ってください。

取り扱いのお願い

永くお使いいただくため、次のことを守ってください。

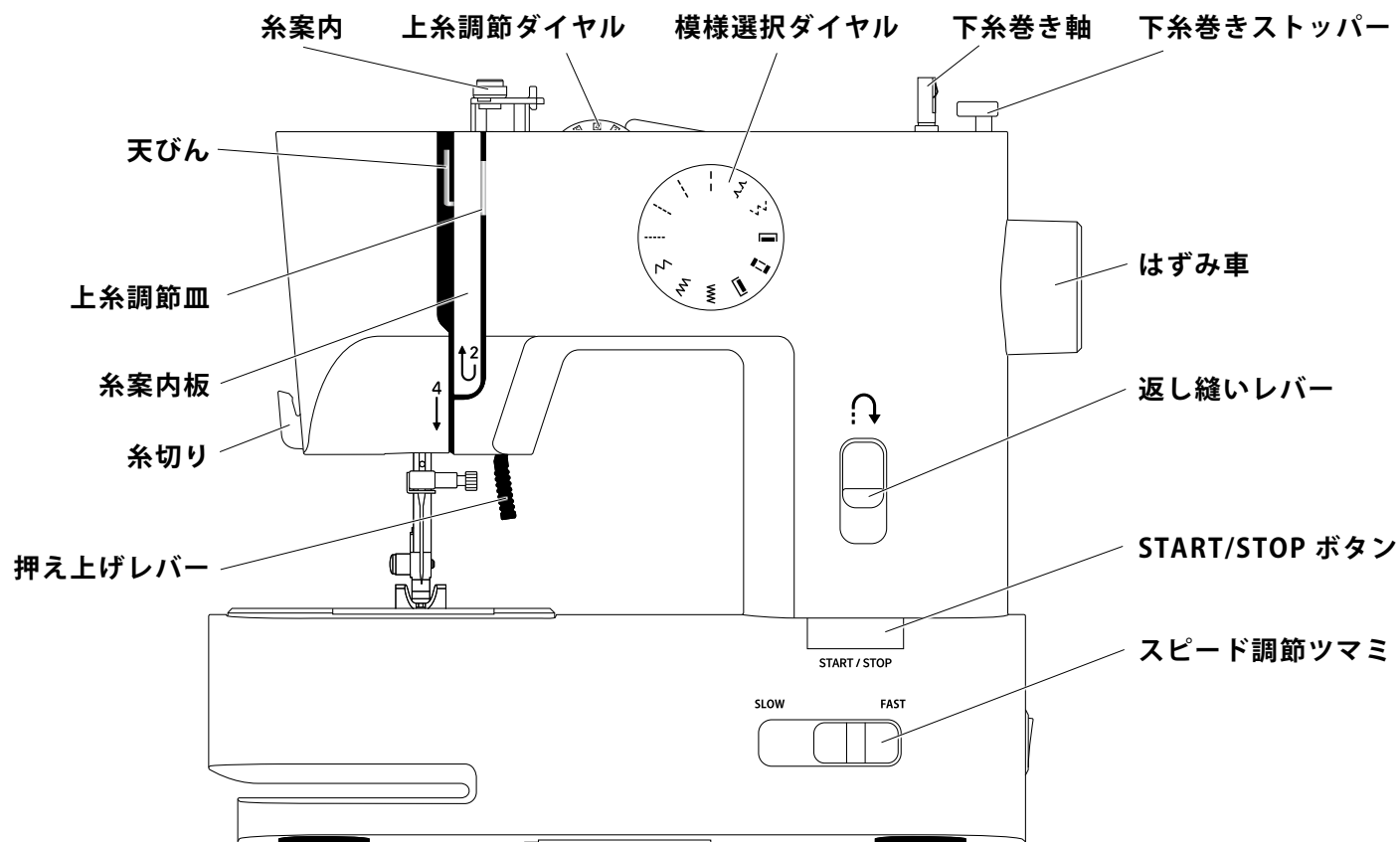
縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。

 注意   ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。

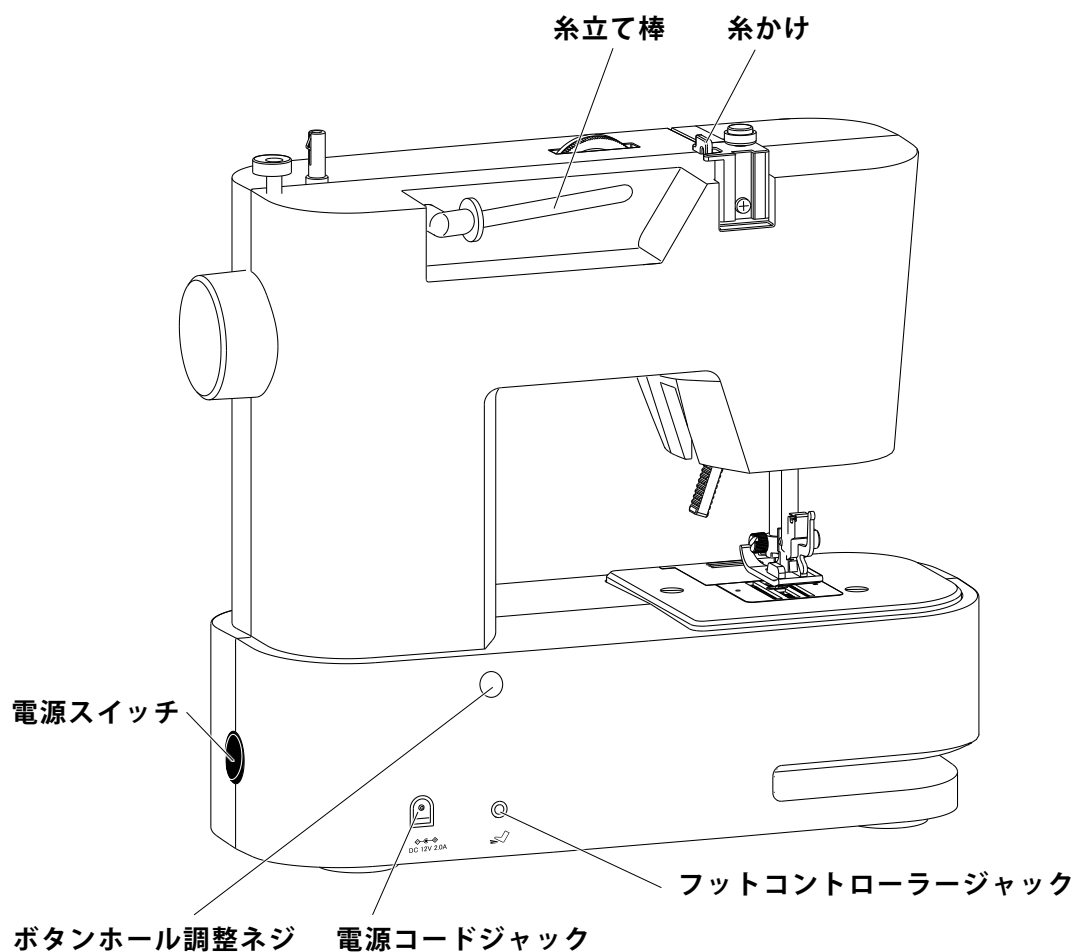
- 曲がった針を使わない。
曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。
・針の穴に刺さらず、折れた針が飛んでケガの原因になります。 ・押えや針板に傷を付け、糸調子が合わなくなります。
- このミシンで縫えないもの。
次のものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針が折れるなどの原因になります。
・木、プラスチック、金属などの板・ぬれた布、粗い網（漁網など） ・はずみ車を手で回しても、針が刺さりにくい布 ・極端な段差
- 保管時の結露（つゆつき）について。
寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露（つゆつき）が起こることがあります。結露がなくなるまで、AC アダプターをコンセント（家庭用電源 /100V）に接続しないでください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。
- 直射日光・熱気をさける。
直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。
- 糸が絡んでしまったとき、糸・布を引っ張らない、無理にはずみ車を回さない。
針や部品を破損します。
- ミシン表面のお手入れ。
プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。
※ ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。
- 取扱説明書で指定された以外の分解・改造はしない。
ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針が折れるや、部品の破損につながります。
- 使用した後、上糸をはずす。
糸をかけたまま収納すると、糸立て棒を破損します。上糸ははずしてください。
- 長期間使用しないとき。
長期間使用しないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。
時々、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。

各部の名まえ

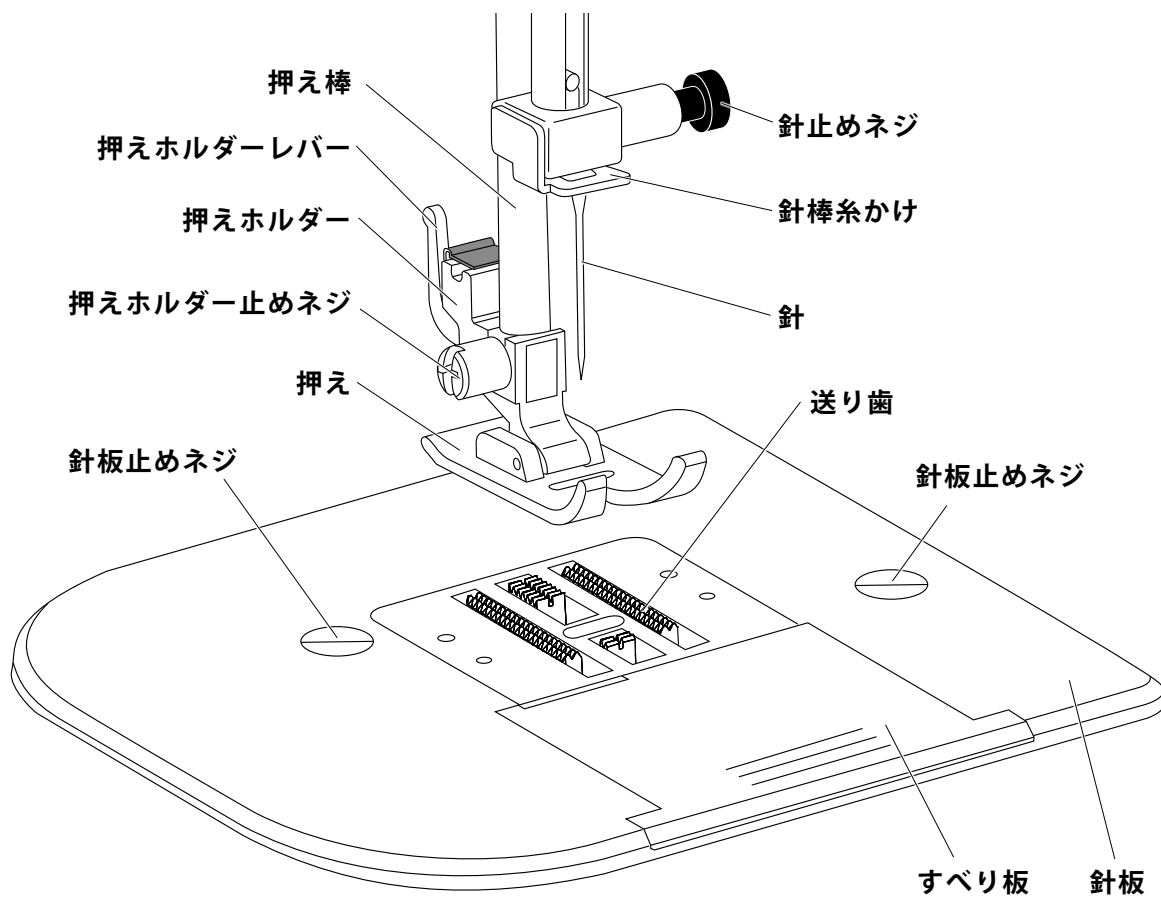
● ミシン本体〈正面〉



● ミシン本体〈背面〉



● 針の周辺

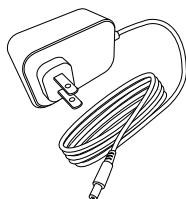


付属品

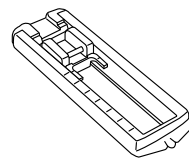
- 必ず専用の付属品をご使用ください。
- ボビンをお買い求めるときは家庭用プラスチックボビン(高さ11.5mm×直径20.5mm)とご指定ください。
- 針をお買い求めるときは市販の家庭用ミシン針(HA×1)とご指定ください。



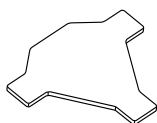
取扱説明書(本書)



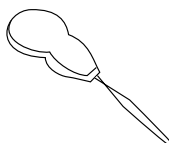
ACアダプター
(出力:12V 2.0A)



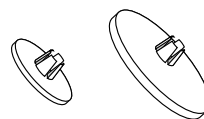
ボタンホール押え



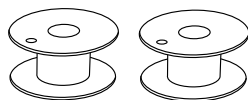
針板ドライバー
(針止めネジ/針板止めネジ
押えホルダー止めネジ用)



糸通し器

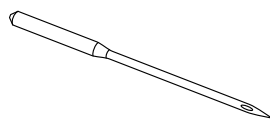


糸こま押え(小・大)

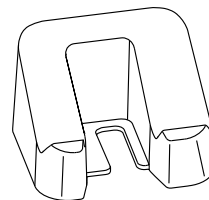


家庭用プラスチックボビン2個
(高さ11.5mm×直径20.5mm)

※『家庭用プラスチックボビン』は
ミシン本体にも1個セットされて
います。



針1本(HA×1 14番)



スマホスタンド/針ガード
※『スマホスタンド/針ガード』は
ミシン本体にセットされています。



糸立てホルダー



QRコードシール

QRコードを読み取ることでミシンの様々な使いかた説明の動画をご覧になれます。
お持ちのスマートフォン以外にもタブレット、パソコンなどでもご覧になれます。

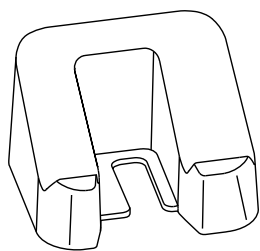
<https://www.axeyamazaki.co.jp/kosodate/index.html>

※『QRコードシール』を見やすい所に貼ってご使用ください。

※糸かけの妨げになる所には貼らないでください。

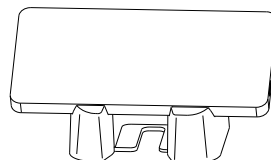
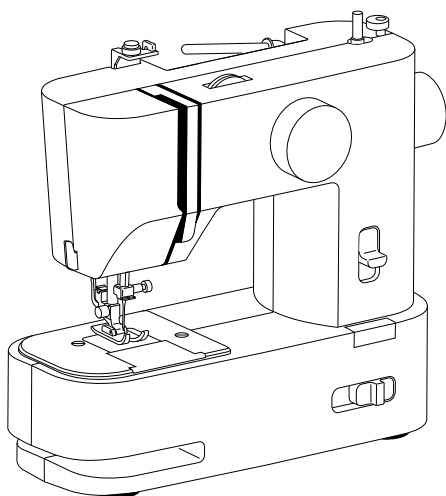
スマホスタンド / 針ガード

ミシンから離れるときは
『スマホスタンド』を針ガードとして使えます。

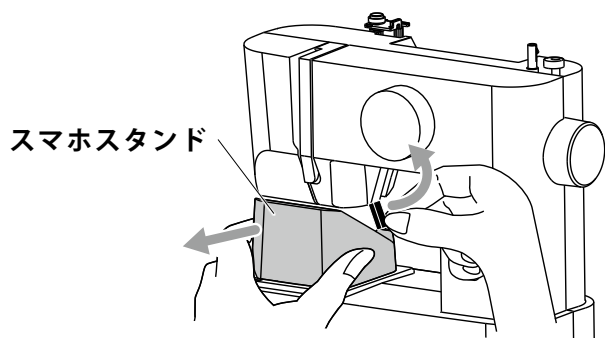


スマホスタンド

お持ちのスマートフォンを置くことができます。
ミシンを使っている途中で、「ちょっと離れる」ときに、針の前にかぶせて
『針ガード』としてご使用いただき、お子様が直接針に触れるのを防ぎます。

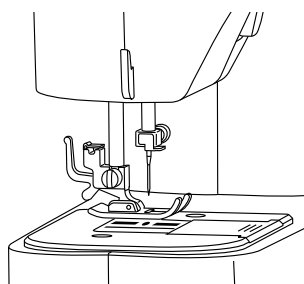


●スマホスタンドの取りはずしかた

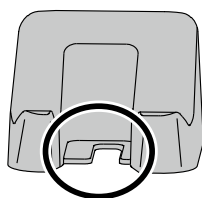


- 【1】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を上げます。
（P10の押え上げレバーを参照してください）
- 【2】『スマホスタンド』を手前に引いてはずします。

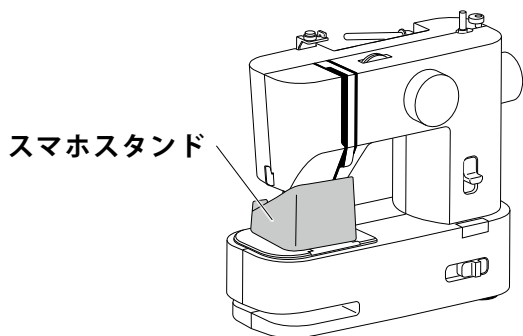
●スマホスタンドの取り付けかた



スマホスタンド



- 【1】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を上げます。
（P10の押え上げレバーを参照してください）
- 【2】『スマホスタンド』の○で囲んだ部分を『押え』の下に挿入します。
- 【3】『押え』を下げます。



スマホスタンド

電源を入れる



警告



- ・電源コードはACアダプターを持って抜く。
コードのみを引っ張ると、ACアダプターのコード部分が破損し、火災、感電、機器故障の原因になります。



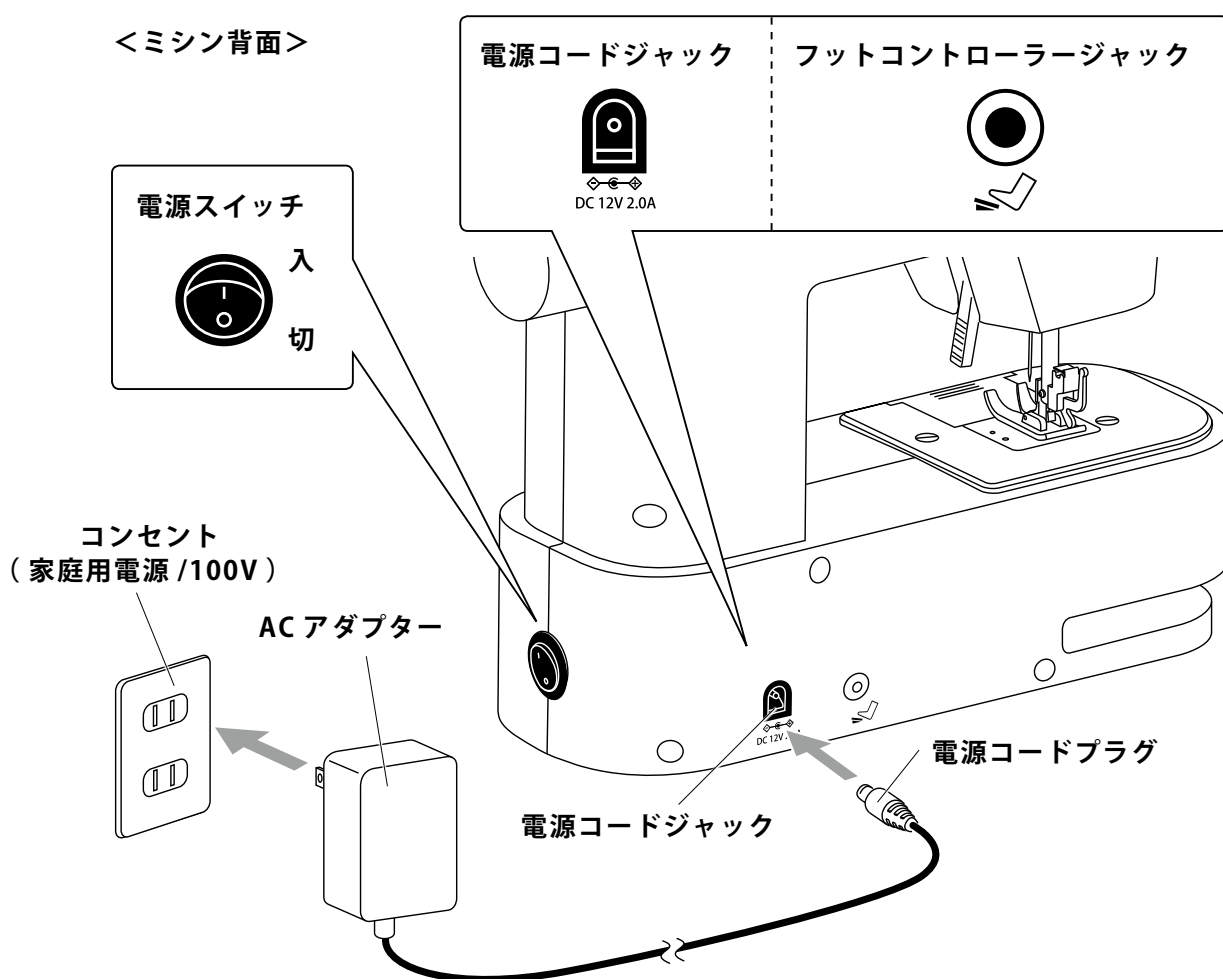
注意



- ・電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・ACアダプターを使用するときは
電池を必ず抜く。
- ・ACアダプターは必ず純正品を使用する。
- ・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
周囲に物を置かない。
- ・水平なところにミシンを設置する。
作業スペースを確保する。

●ACアダプター

<ミシン背面>



- 【1】『電源スイッチ』を『○』側に押し、電源を切ります。
- 【2】『電源コードプラグ』をミシン本体の『電源コードジャック』に確実にさし込みます。
- 【3】『ACアダプター』を『コンセント (家庭用電源 / 100V)』に確実にさし込みます。
- 【4】『電源スイッチ』を『I』側に押し、電源を入れます。

●電池(単3形アルカリ電池×4本)



注意



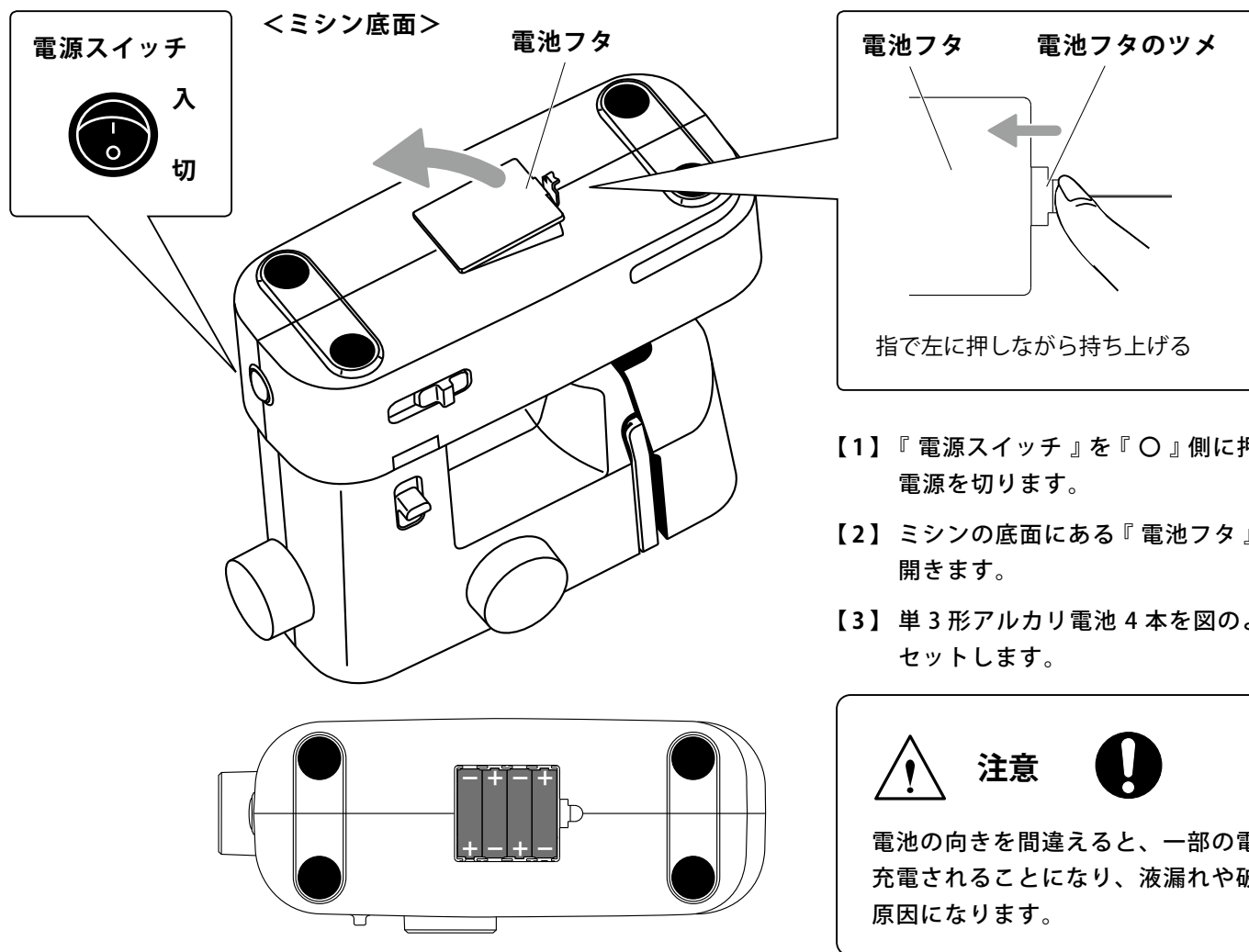
- ・電池を誤使用すると発熱・破裂・液漏れ・発火の恐れがあります。以下に注意してください。
- 1. 二次電池(充電式電池)またはマンガン電池は絶対に、使用しないでください。
- 2. 古い電池と新しい電池、いろいろな種類の電池を混ぜて使用しないでください。
- 3. +-(プラスマイナス)を正しくセットしてください。
- 4. 使用後は、必ず電源スイッチを『0』にし、電池をはずしてください。
- 5. ショートさせたり充電・分解・加熱・火の中に入れたりしないでください。
- 6. 万一、電池から漏れた液が目に入ったときはすぐに大量の水で洗い、医師に相談してください。皮膚や服に付いたときは水で洗ってください。
- 7. 破棄するときは、自治体の廃棄物処理の指示に従ってください。
- ・電池の向きを間違えると、一部の電池が充電されることになり、液漏れや破裂の原因になります。
- ・電池とACアダプターを併用すると電池の液漏れや発熱の原因となります。

電池を使用するときは、ACアダプターを必ず抜いてください。

単3形アルカリ電池使用縫製可能持続時間の目安

デニム2枚重ね 連続運転時 約30分(30～40cmのレッスンバック2個分)

* 布の種類や布の重なり具合、アルカリ電池の種類により縫製可能持続時間には差があります。



- 【4】電池フタの凸をミシンの底面にある穴にさし込み、『電池フタ』を閉じます。
- 【5】『電源スイッチ』を『I』側に押し、電源を入れます。

模様選択



注意

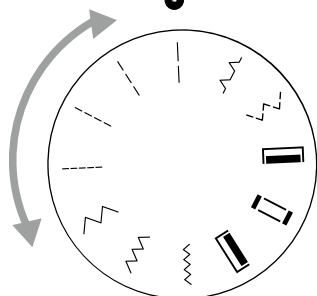


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



・針が布に刺さった状態で
模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

模様選択位置



模様選択ダイヤル

模様選択は『模様選択ダイヤル』を回して

『模様選択位置』にお好みの縫い模様を合わせます。

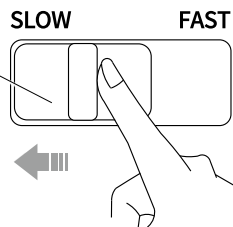
*『模様選択ダイヤル』は左右どちらにも
回すことができます。

表示					
模様	直線縫い (中基線) 送り長さ・最大 送り長さ・大 送り長さ・中 送り長さ・小	ジグザグ縫い 送り幅・大 送り幅・中 送り幅・小	ボタンホール 1 2・4 3	点線ジグザグ	まつり縫い
用途	地縫い	ほつれ止め	ボタンホール	パッチワーク ほつれ止め	裾上げ

スピード調節ツマミ

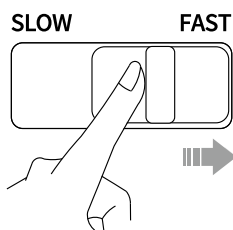
『スピード調節ツマミ』を調節することで、ミシンの
運転速度を好みのスピードに調節できます。

スピード調節
ツマミ



・ゆっくり縫うとき

『スピード調節ツマミ』を『SLOW』側に
スライドさせます。



・はやく縫うとき

『スピード調節ツマミ』を『FAST』側に
スライドさせます。

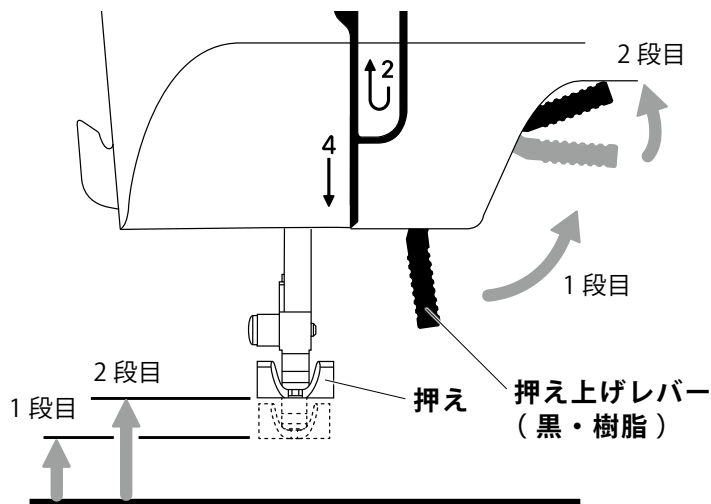
押え上げレバー



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



『押え上げレバー (黒・樹脂)』を上げると『押え』が上がります。

更に『押え上げレバー (黒・樹脂)』を上げると『押え』がもう1段上がる2段階式になっています。

※2段目では、『押え』の高さは固定できません。

※布の厚みは1段目の高さを超えないようにしてください。

押えの取りはずしかた・取り付けかた



注意



・電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押えホルダーレバー (金属)



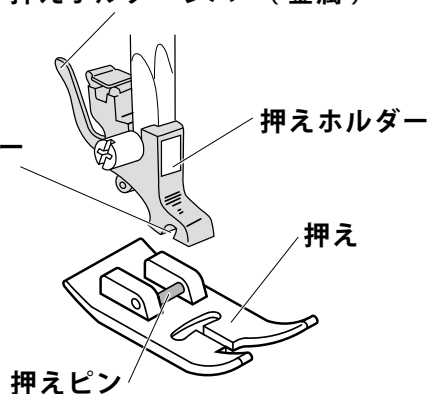
●押えの取りはずしかた

- 【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。
- 【2】『押え上げレバー (黒・樹脂)』を上げます。
- 【3】『押えホルダーレバー (金属)』を上げると『押え』がはずれます。



押えホルダーレバー (金属)

押えホルダー
ミツ



●押えの取り付けかた

- 【1】針と『押え上げレバー (黒・樹脂)』を上げます。
- 【2】『押えピン』を『押えホルダーミツ』の真下に置きます。
- 【3】『押え上げレバー (黒・樹脂)』をゆっくり下げ『押えピン』と、『押えホルダーミツ』を合わせ装着します。

※『押え』が装着されると「カチッ」と音がします。

※音がしない場合や、『押え』がすぐにはずれるときはもう一度『押えピン』と、『押えホルダーミツ』の位置を合わせ直してください。

押えホルダーの取りはずしかた・取り付けかた



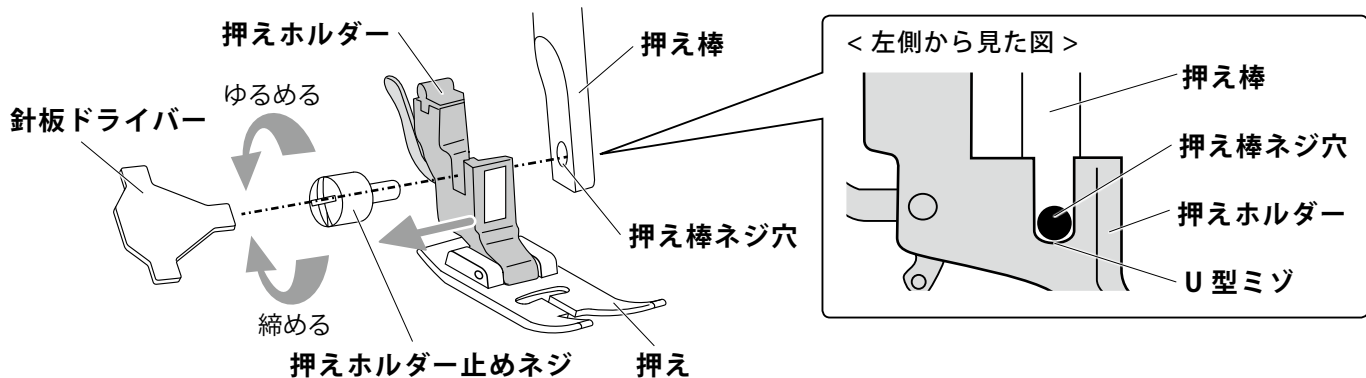
注意



・電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。

【2】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で、『押え』を上げます。

【3】はずす：『押えホルダー止めネジ』を、『針板ドライバー』でゆるめ、
『押えホルダー』をはずします。

付ける：『押えホルダー』の『U型ミゾ』と、『押え棒ネジ穴』の位置を合わせ
『押えホルダー止めネジ』を、『針板ドライバー』で強く締めます。

＊付属の『針板ドライバー』をご使用ください。

ボビンの取り出しかた



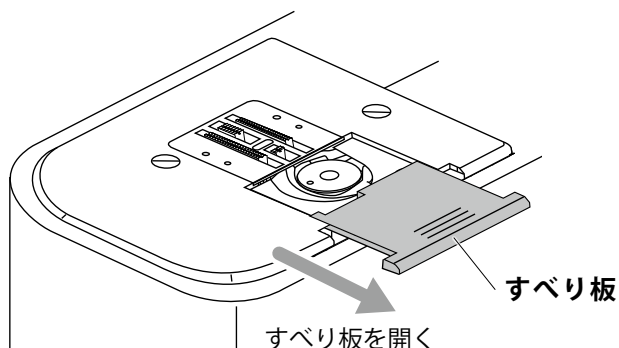
注意



・電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとケガをする恐れがあります。

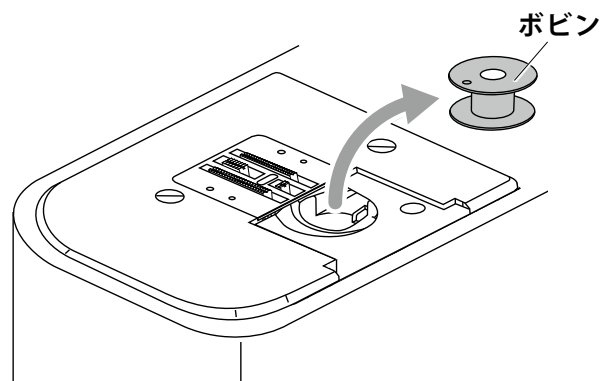


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



【1】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で
『押え』を上げます。
(P10の押え上げレバーを参照してください)

【2】『すべり板』を手前に引いてはずします。



【3】『ボビン』を取り出します。

＊右側から指を入れ、『ボビン』をおこし
つまんで取り出します。

下糸の準備

* ボビンは家庭用プラスチックボビン (高さ11.5mm×直径20.5mm) をご使用ください。
(異なるボビンを使用するとミシンの故障の原因になる恐れがあります)



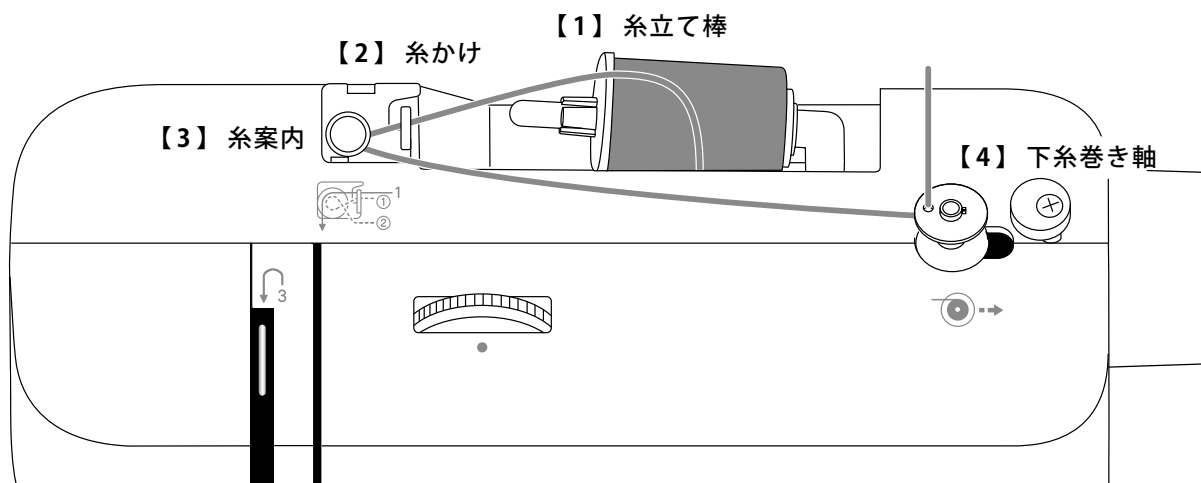
注意



・電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・下糸巻きの作業中は下糸巻き軸やボビンに触れない。
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



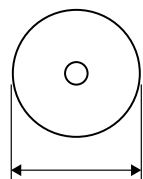
●糸こまの種類に合わせて、糸こま押えのサイズを選んでください

『糸こま押え』のサイズを間違えますと糸がスムーズに繰り出されず、引っかけ糸が絡む、糸調子が合わないなどの症状を引き起こすことがあります。

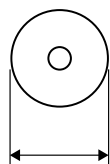
* 手縫い糸は使用できません。

●糸こまの種類

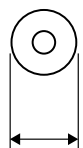
直径



約 3.7cm

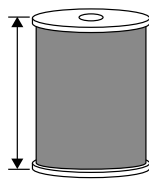


約 3cm

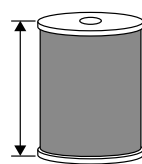


約 2.2cm

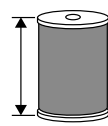
高さ



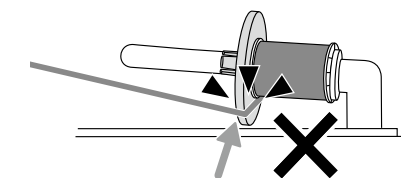
約 5cm



約 4cm

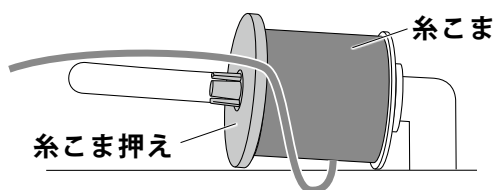


約 2.8cm

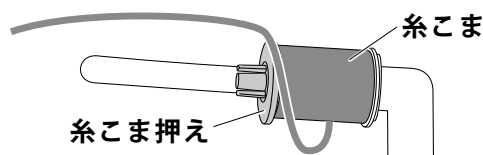


『糸こま押え』に糸が引っかかります

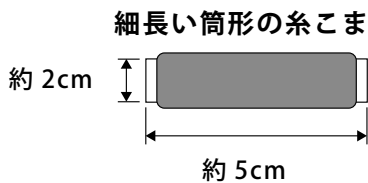
● 糸こまの直径が約 3.7cm や約 3cm の場合は
『糸こま押え (大)』を使用します。



● 糸こまの直径が約 2.5cm 以下の場合は
『糸こま押え (小)』を使用します。



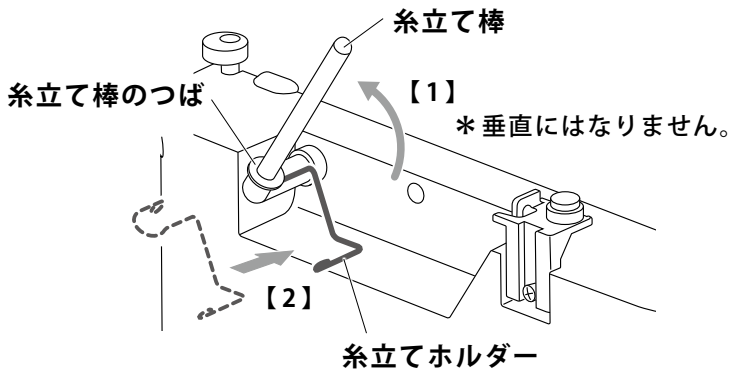
●細長い筒型の糸こまの場合



『細長い筒型の糸こま』は縫製中に糸がスムーズに流れず、絡んでしまう可能性があります。

『糸こま押え』を使用せず、『糸立てホルダー』で糸を立ててご使用ください。

●糸立てホルダーの取り付けかた



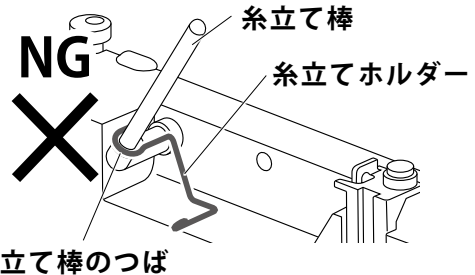
【1】『糸立て棒』の先端を持ち上げます。

【2】『糸立てホルダー』の向きに注意してさし込みます。



注意

『糸立てホルダー』は『糸立て棒のつま』より下に取り付けてください。



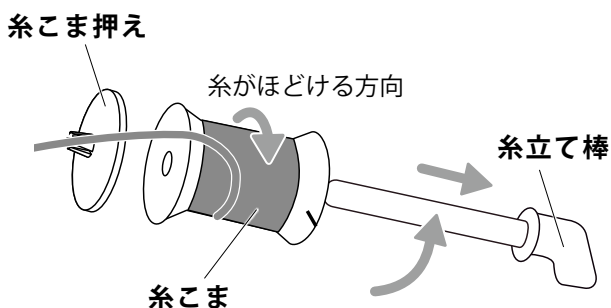
【1】『糸立てホルダー』の○部分の2箇所を持ち、手前に引き抜きます。

【2】『糸立て棒』を元の位置まで倒します。

*『糸立てホルダー』を使用しない場合、『糸立て棒』を立てた状態で使用しないでください。

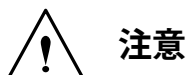
*ミシン収納や持ち運びのときは『糸立てホルダー』をはずして、『糸立て棒』を元の位置に戻してください。

●下糸の巻きかた



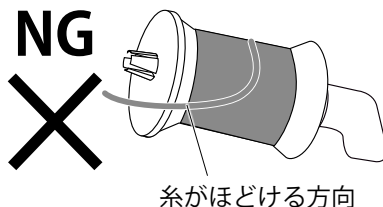
【1】『糸立て棒』の先端を持ち上げ、糸の端が時計回りにほどけるように入れ、『糸こま押え』で、『糸こま』を押えます。

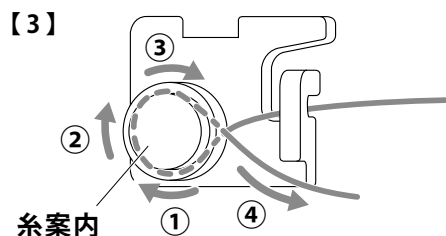
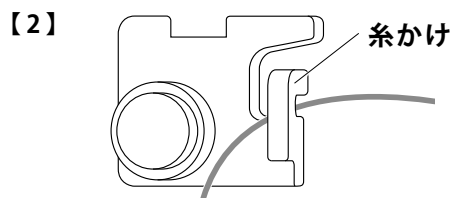
*『糸こま』が飛び出してこないように『糸こま押え（小）』または『糸こま押え（大）』で必ず押えます。



注意

糸のほどける方向が反時計回りにかけると縫っている途中で糸が絡んで止まることがあります。



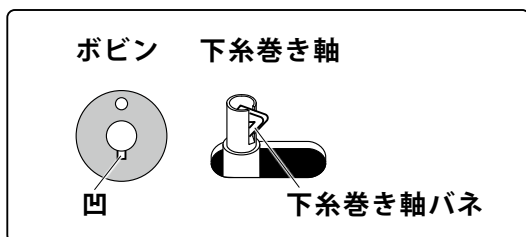
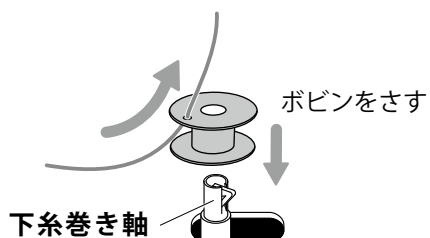
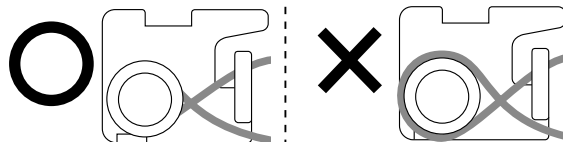


【2】『糸かけ』に糸をかけます。

【3】『糸案内』の下に時計回りに1回転させ奥までしっかり糸をかけます。

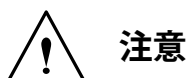


『糸案内』に奥まで糸が入っていないと正常に糸が巻けません。

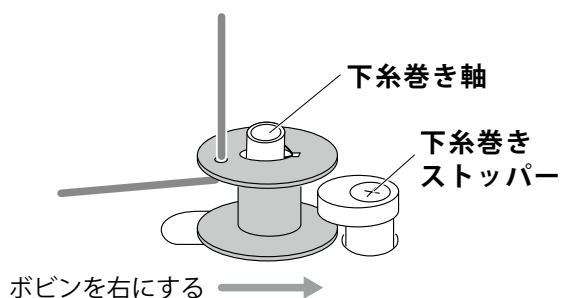


【4】『ボビン』の穴に内側から糸を通し、『ボビン』を『下糸巻き軸』にさします。

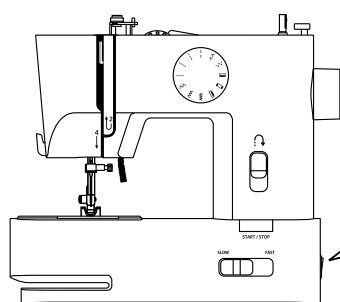
*『ボビン』を『下糸巻き軸』にさすとき、『ボビンの凹』と、『下糸巻き軸バネ』を合わせてください。



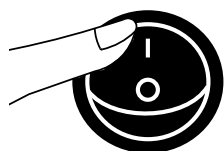
『ボビンの凹』と、『下糸巻き軸バネ』を合わせないと糸を巻くとき、『ボビン』が空回りして糸が巻けません。



【5】『下糸巻き軸』を右に移動させます。



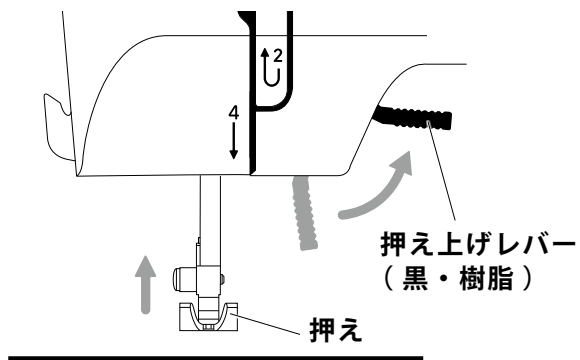
【8】
電源スイッチ・入



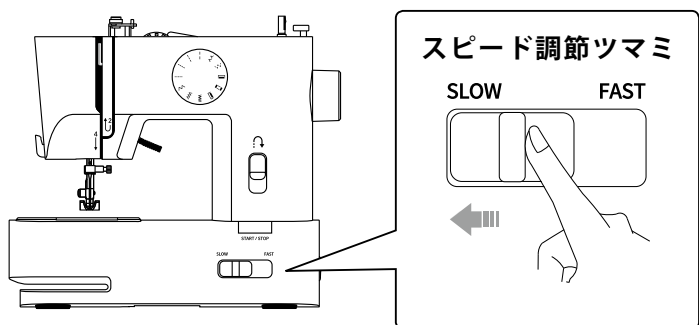
【6】『電源スイッチ』を『○』側に押し、電源を切っておき、『電源コードプラグ』をミシン本体の『電源コードジャック』に確実にさし込みます。

【7】『ACアダプター』を『コンセント（家庭用電源/100V）』に、確実にさし込みます。（P7の電源を入れるを参照してください）

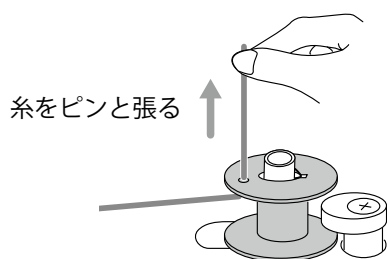
【8】『電源スイッチ』を『I』側に押し、電源を入れます。



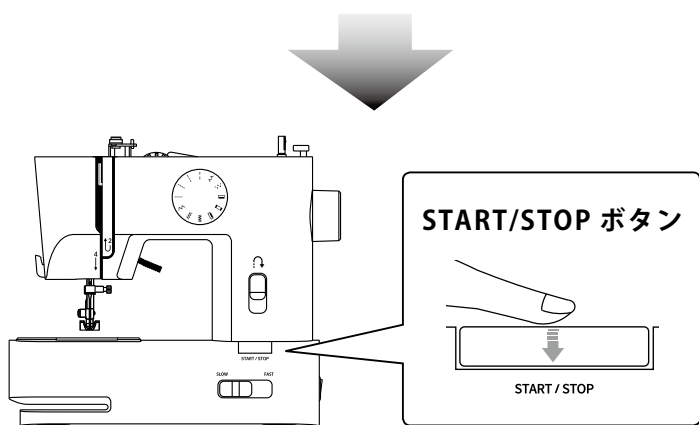
【9】『押え上げレバー (黒・樹脂)』で『押え』を上げます。



【10】『スピード調節ツマミ』を『SLOW』にします。

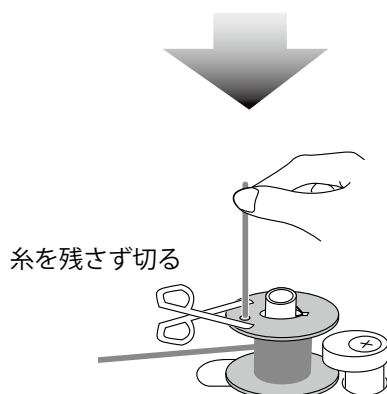


【11】糸の端を持ちながら『START/STOP ボタン』を上から押して『ボビン』に数回転、糸を巻きつけます。
再度『START/STOP ボタン』を押してミシンを止めます。



⚠ 注意

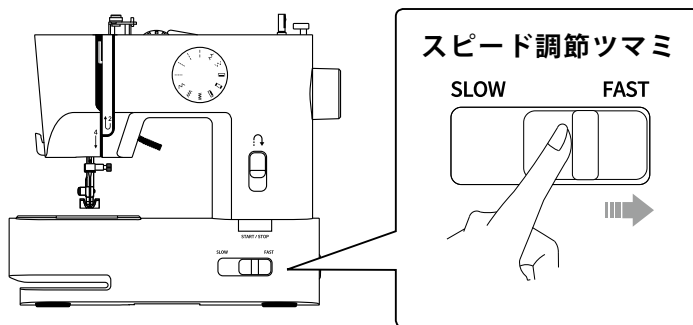
- ・糸の巻き込みを防ぐために『START/STOP ボタン』を押して数回、糸を巻いているときは、糸の端を持続けてください。
- ・『START/STOP ボタン』は強く押さないでください。



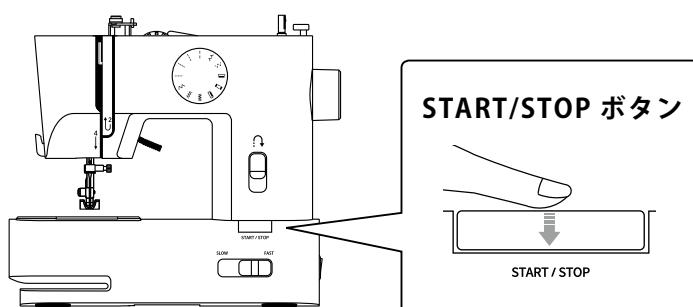
【12】持っていた糸を『ボビン』の穴のきわで切ります。

⚠ 注意

- ・糸の端が残っていると縫うときに上糸が引っかかる可能性があります。
- ・糸の端が『ボビン』内に巻き込んでしまった場合も糸の輪は切って取り除いてください。



【13】『スピード調節つまミ』を『FAST』にします。

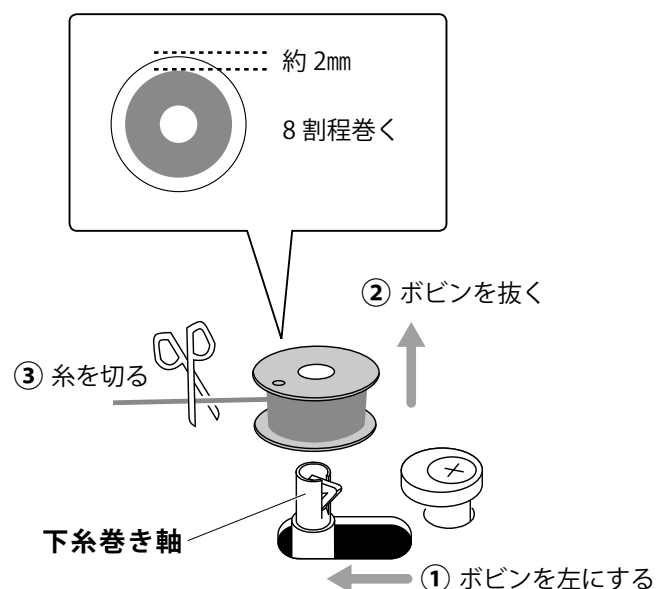


【14】『START/STOP ボタン』を上から押して糸を巻きます。



注意

『START/STOP ボタン』は強く押さないでください。



【15】8 割程巻き終わったら、『START/STOP ボタン』を上から押してミシンを止めます。
『下糸巻き軸』を左に戻して『ボビン』を抜き、糸を切ります。

● 下糸のセット

* ボビンは家庭用プラスチックボビン（高さ 11.5mm×直径 20.5mm）をご使用ください。
（異なるボビンを使用するとミシンの故障の原因になる恐れがあります）



注意



・電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとケガをする恐れがあります。

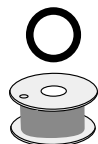


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



注意

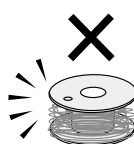
* 糸の端が下記のように残っていると、糸がカマの内部に引っかかり、糸絡みの原因になります。



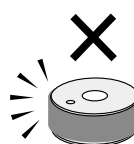
糸が残っている



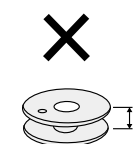
糸の輪が出来ている



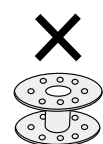
糸がゆるい



糸を巻き過ぎている



ボビンの
サイズが異なる

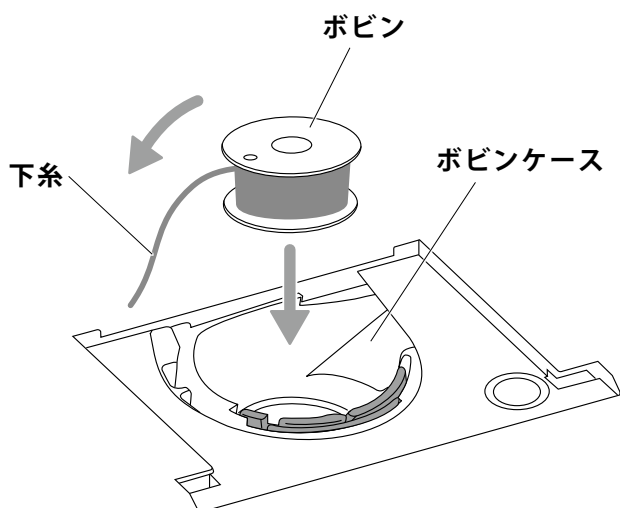


金属製のボビン

- 【1】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で
『押え』を上げます。

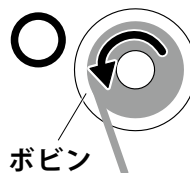
（P10の押え上げレバーを参照してください）

- 【2】下糸は『ボビン』の左側から糸が
出るように『ボビンケース』に入れます。

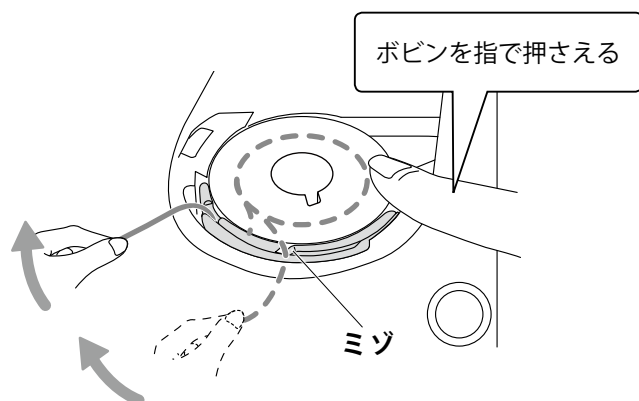
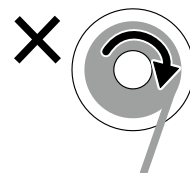


注意

『ボビン』の向きは時計方向に入れると
縫っているときに突然糸絡みして
ミシンが動かなくなることがあります。

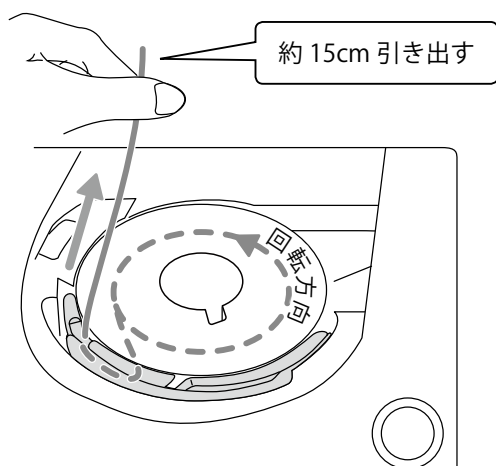


ボビン



- 【3】『ボビン』を指で軽く押えながら
引き出した糸を『ミズ』にかけ
左奥に引き出します。

* 下糸の糸調子をとるのが『ミズ』です。
糸のかかりが浅いと正しい縫い目になりませんので、
『ミズ』にはしっかりと深くかけてください。



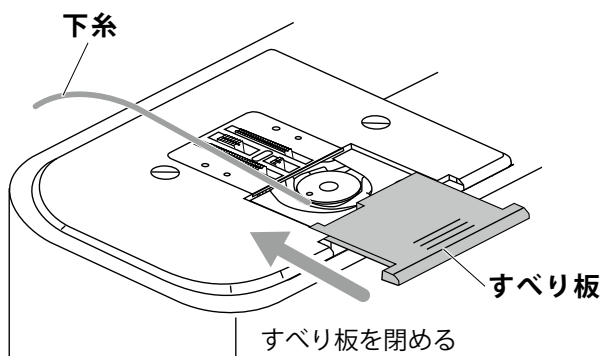
【4】 下糸を向こう側に約 15cm 引き出します。

* 下糸を引き出したとき、『ボビン』は
反時計方向に回転します。



注意

下糸が 15cm 以下の場合、下糸を引き上げ
ないや、縫い始め、縫っているときに
突然糸絡みしてミシンが動かなくなることが
あります。



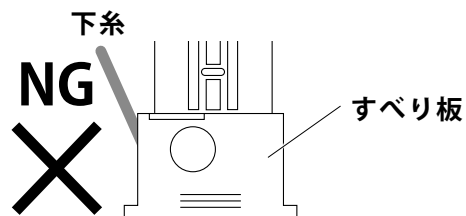
【5】 『すべり板』を閉めます。

* 下糸は『すべり板』の上から引き出しておきます。



注意

下糸を『すべり板』の左側に挟まないよう
注意してください。
下糸が上がらなくなることがあります。



上糸の準備

●針・天びん・押えを上げる



注意



・電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

【1】『電源スイッチ』を『○』側に押し電源を切ります。

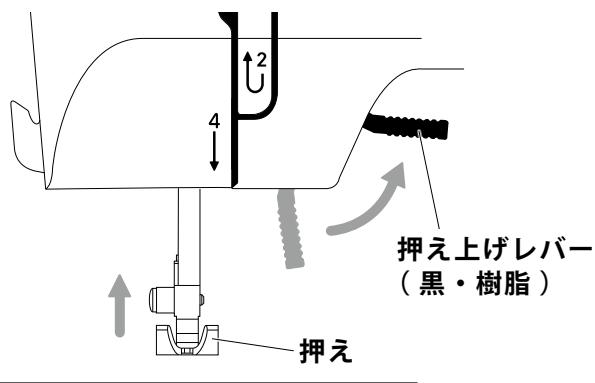
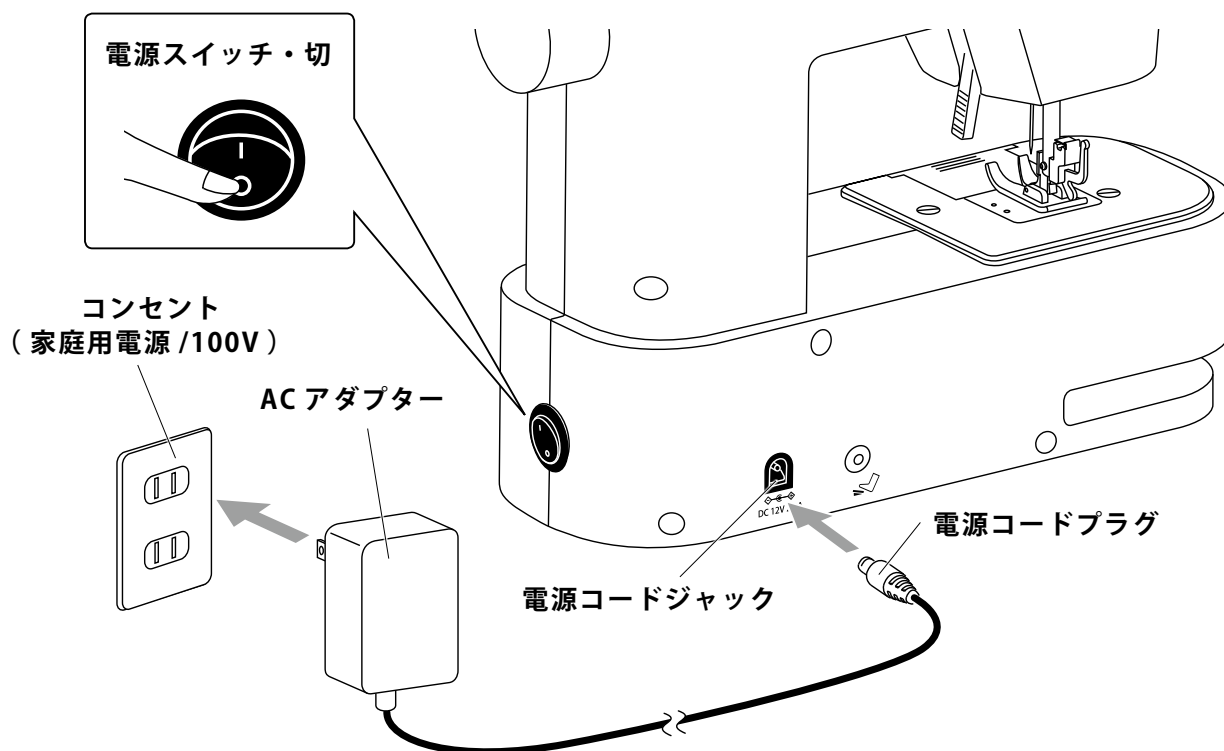
【2】『電源コードプラグ』をミシン本体の『電源コードジャック』に確実にさし込みます。

【3】『ACアダプター』を『コンセント（家庭用電源 / 100V）』に確実にさし込みます。

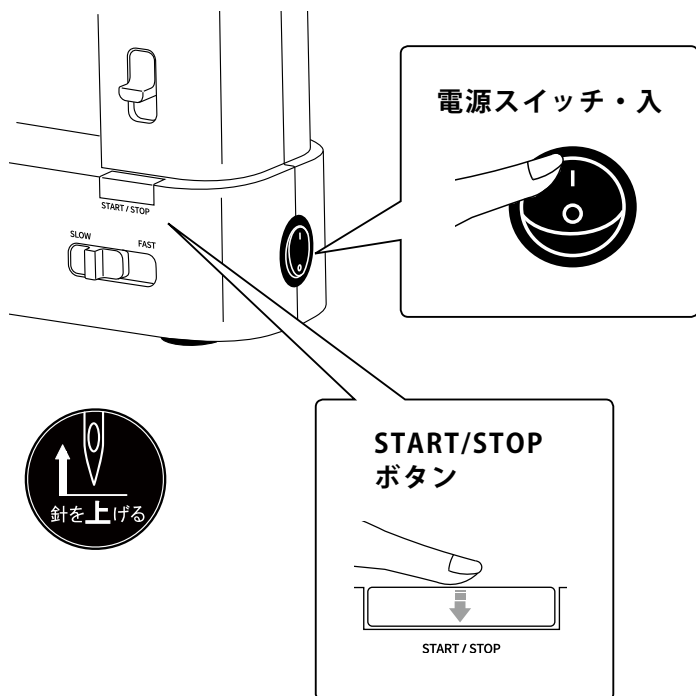


注意

『ACアダプター』を使用しているときは、電池は必ず抜いてください。



【4】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を上げます。



【5】『電源スイッチ』を『I』側に押し電源を入れます。

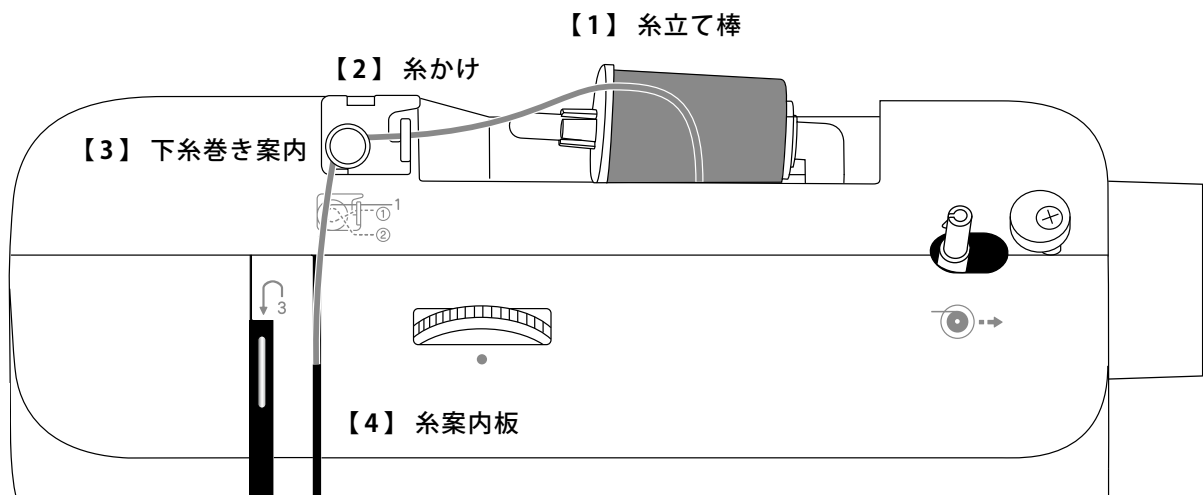
【6】『START/STOP ボタン』を上から押し1秒程度動かしてから再度『START/STOP ボタン』を押してミシンを止めて、針を一番上します。



注意

『START/STOP ボタン』は強く押さないでください。

【7】『電源スイッチ』を『O』側に押し電源を切ります。



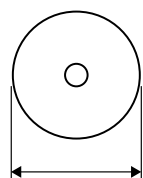
●糸こまの種類に合わせて、糸こま押えのサイズを選んでください

『糸こま押え』のサイズを間違えますと糸がスムーズに繰り出されず、引っかけ糸が絡む、糸調子が合わないなどの症状を引き起こすことがあります。

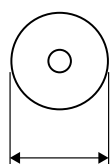
*手縫い糸は使用できません。

●糸こまの種類

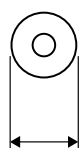
直径



約 3.7cm

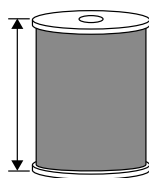


約 3cm

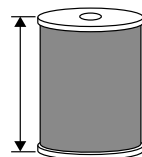


約 2.2cm

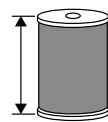
高さ



約 5cm

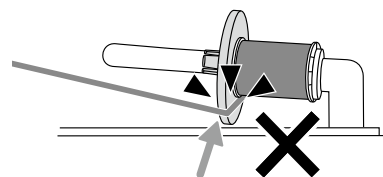


約 4cm

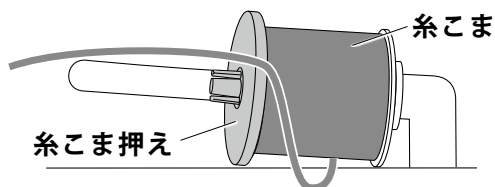


約 2.8cm

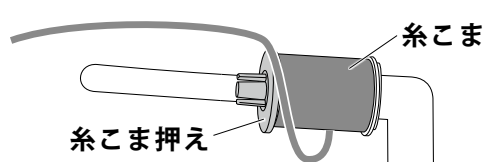
『糸こま押え』に糸が引っかかります



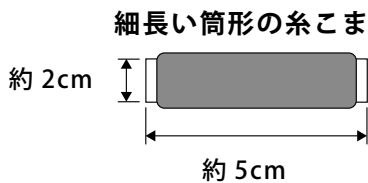
●糸こまの直径が約 3.7cm や約 3cm の場合は『糸こま押え (大)』を使用します。



●糸こまの直径が約 2.5cm 以下の場合は『糸こま押え (小)』を使用します。



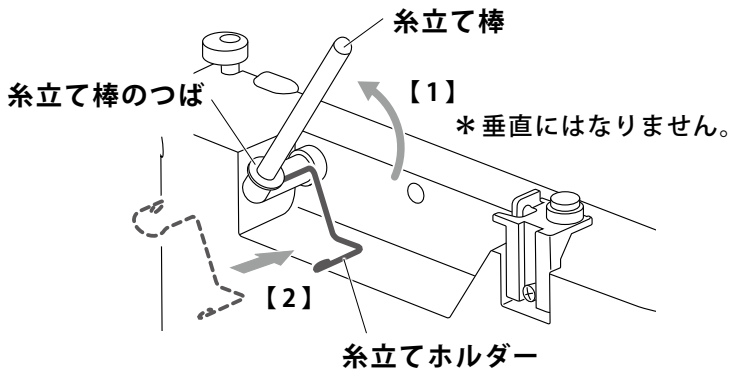
●細長い筒型の糸こまの場合



『細長い筒型の糸こま』は縫製中に糸がスムーズに流れず、絡んでしまう可能性があります。

『糸こま押え』を使用せず、『糸立てホルダー』で糸を立ててご使用ください。

●糸立てホルダーの取り付けかた



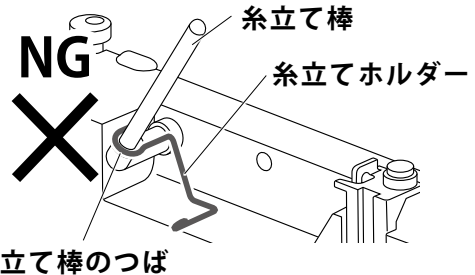
【1】『糸立て棒』の先端を持ち上げます。

【2】『糸立てホルダー』の向きに注意してさし込みます。

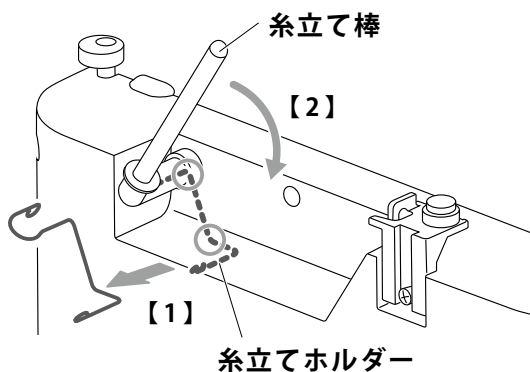


注意

『糸立てホルダー』は『糸立て棒のつま』より下に取り付けてください。



●糸立てホルダーの取りはずしかた



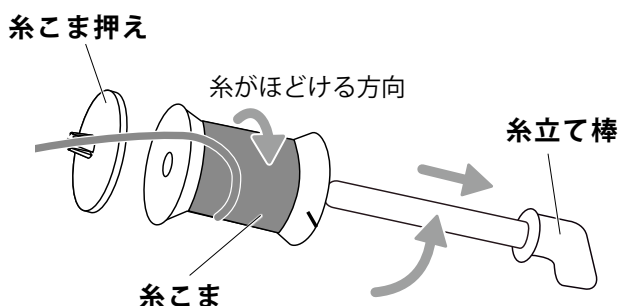
【1】『糸立てホルダー』の○部分の2箇所を持ち、手前に引き抜きます。

【2】『糸立て棒』を元の位置まで倒します。

*『糸立てホルダー』を使用しない場合、『糸立て棒』を立てた状態で使用しないでください。

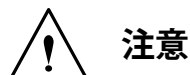
*ミシン収納や持ち運びのときは『糸立てホルダー』をはずして、『糸立て棒』を元の位置に戻してください。

●上糸のかけかた



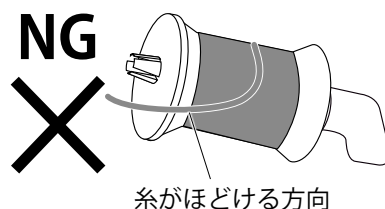
【1】『糸立て棒』を少し上に傾け、糸の端が時計回りにほどけるように入れ、『糸こま押え』で『糸こま』を押えます。

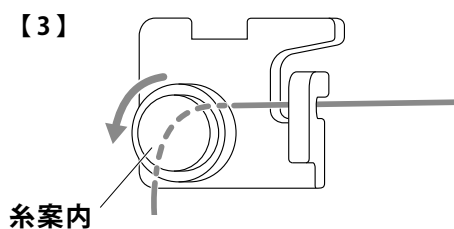
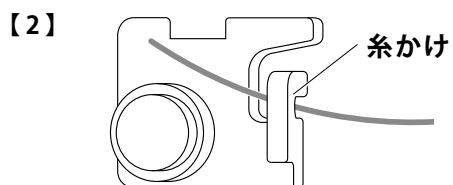
*『糸こま』が飛び出してこないように『糸こま押え(小)』または『糸こま押え(大)』で必ず押えます。



注意

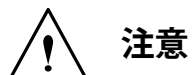
糸のほどける方向が反時計回りにかけると縫っていると途中で糸が絡んで止まることがあります。



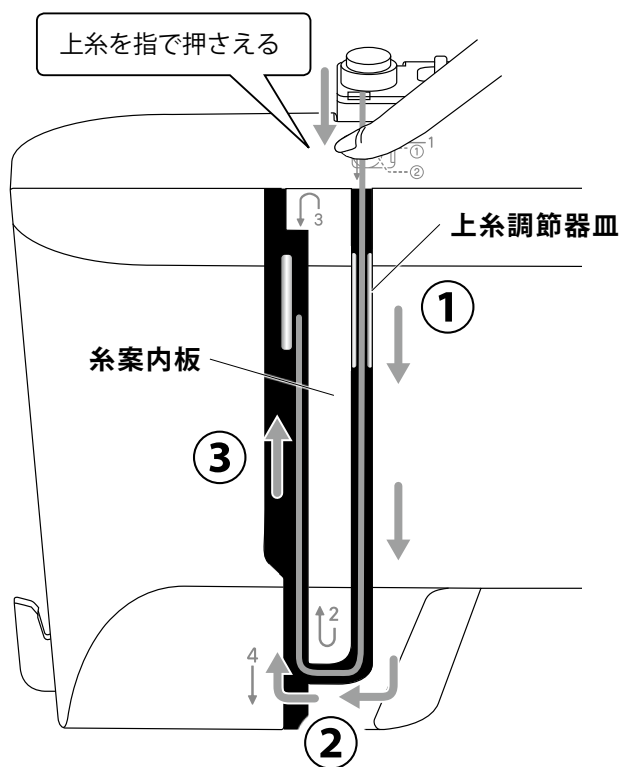
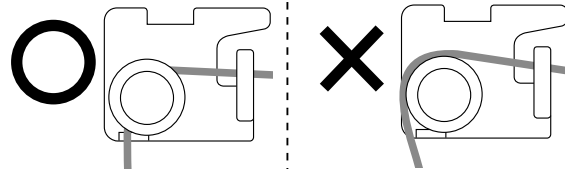


【2】『糸かけ』に糸をかけます。

【3】『糸案内』に後ろから手前側に向かって奥までしっかり糸をかけます。



『糸案内』に奥まで糸が入っていないと正常に縫い目になりません。



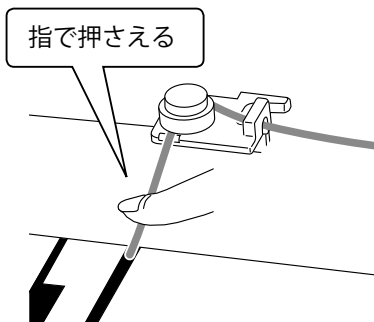
【4】① 上糸を指で軽く押えながら『上糸調節皿』を通過しながら『糸案内板』にそって下します。

②『糸案内板』にそって左側に持っていきます。

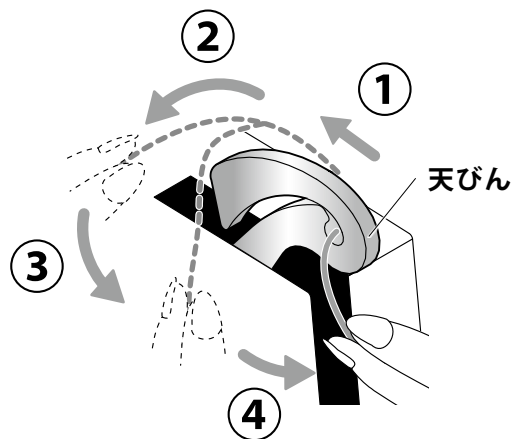
③『糸案内板』にそって左上に引き上げます。

ポイント！

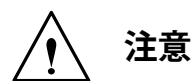
・上糸を押さえながら『糸案内板』にそってしっかり糸を通します。



・『押え』が下がっていると『上糸調節皿』が開かず、上糸が正しくかかりません。

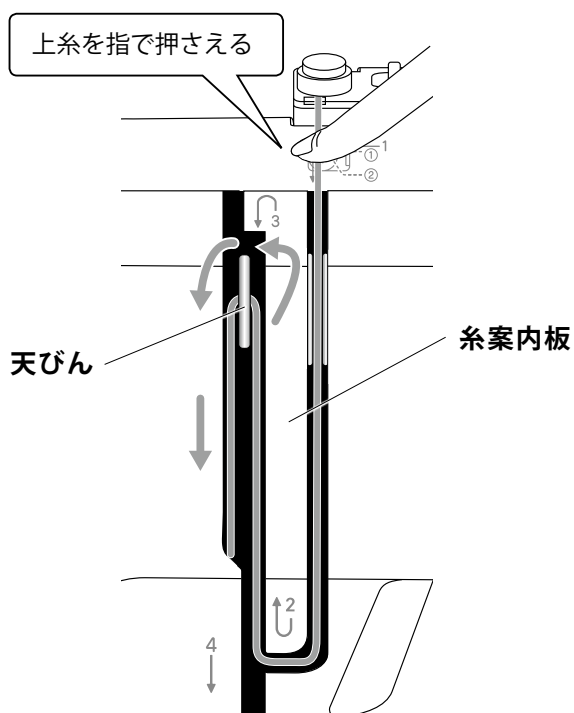
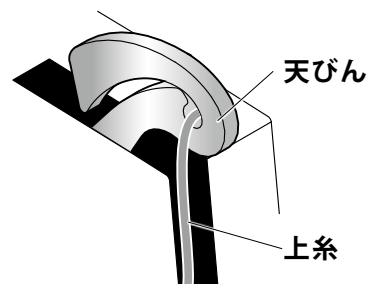


【5】上糸を『天びん』の穴に右から左に通します。

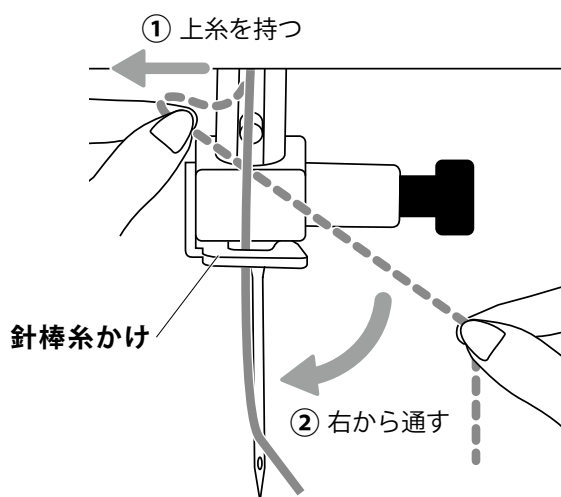


注意

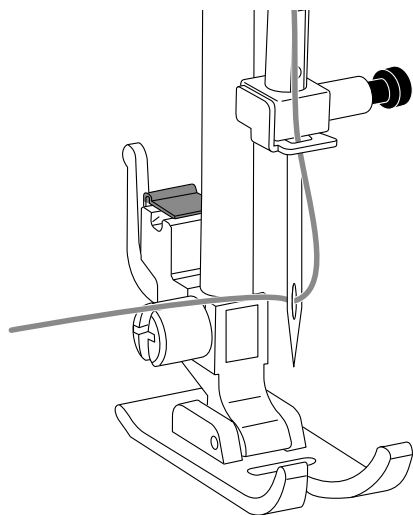
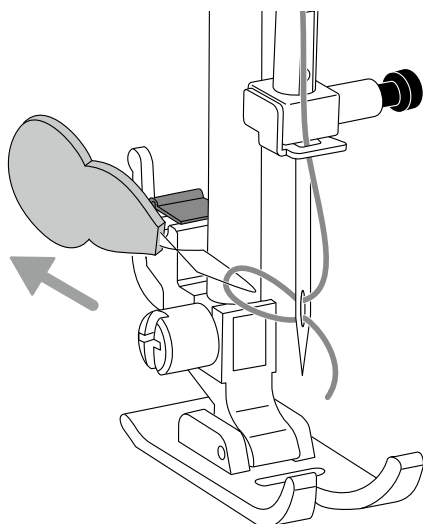
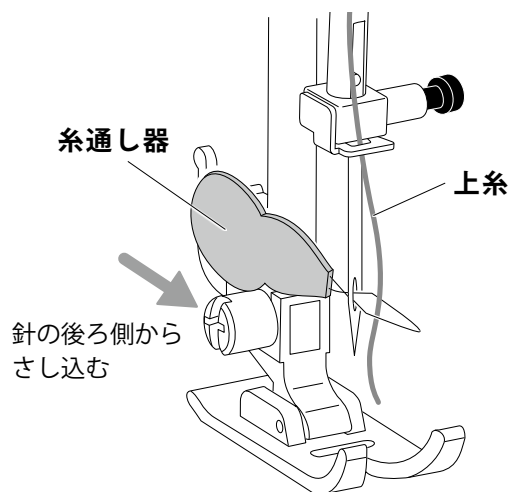
『天びん』から上糸がはずれていると縫い始めに糸絡みしますので注意してください。



【6】『糸案内板』にそって上糸をおろします。



【7】『針棒系かけ』に右から上糸をかけます。



【8】針の後ろ側から『糸通し器』を通します。

『糸通し器』の輪に上糸を通し

『糸通し器』を後ろ側に引き抜きます。

*『糸通し器』が使いにくいときは

『押え』を下げたから使用してください。

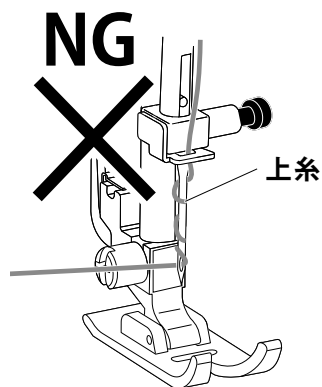
*『糸通し器』を使用しない場合は

針の穴に【前から後ろ】に上糸を通します。

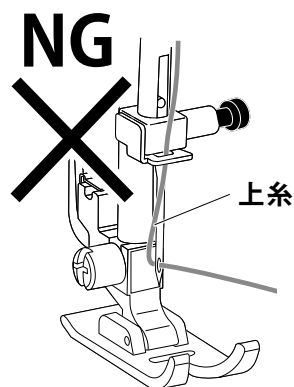


注意

・針に上糸が巻きついていると正しく縫えません。



・上糸を通す方向が逆の場合、正しく縫えません。



下糸の引き上げかた



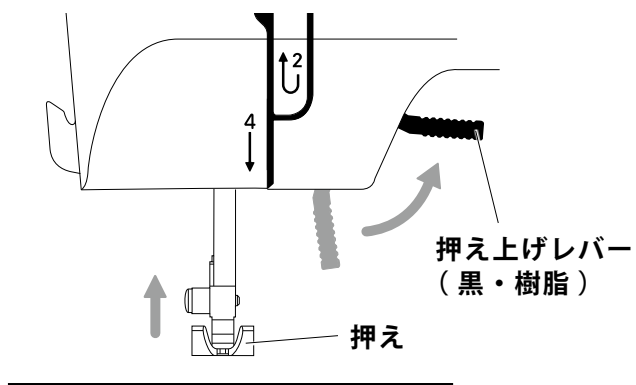
注意



・電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとかげをする恐れがあります。

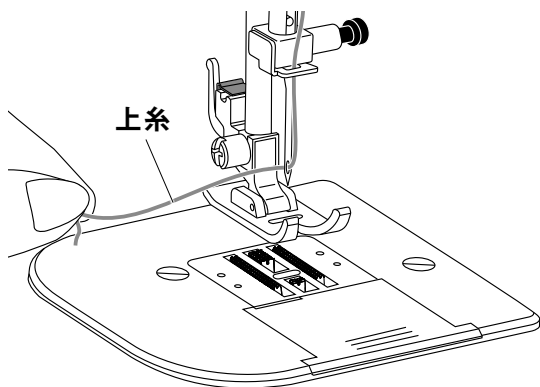


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



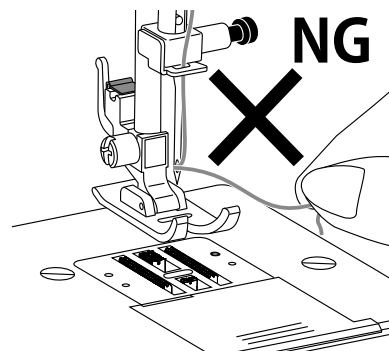
【1】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で
『押え』を上げます。

【2】上糸の端を持ちます。

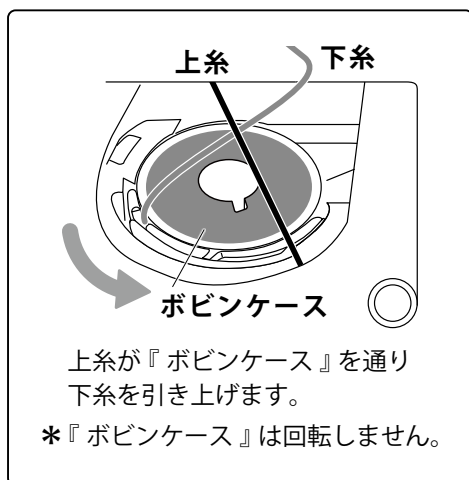
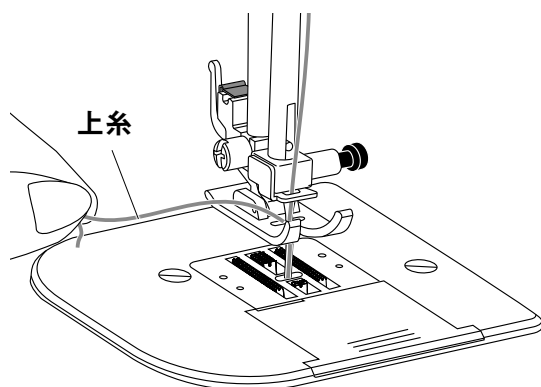
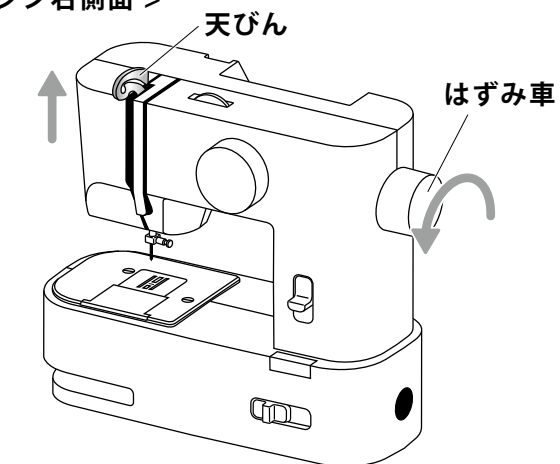


注意

- ・上糸は針の前方付近で持たないでください。
- ・上糸は軽く持つだけにしてください。



< ミシン右側面 >

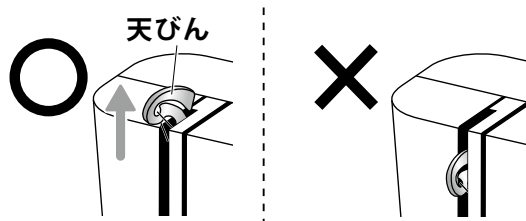


【3】 上糸を軽く持ったまま『はずみ車』を手前に1回転し、針を上下させて、針と『天びん』を上げます。

* 上糸は針の左斜め後ろ付近で持ってください。

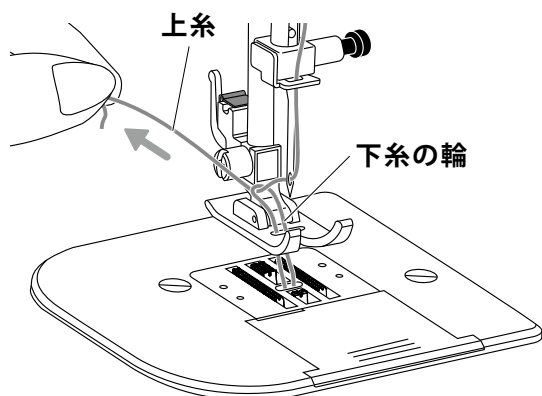
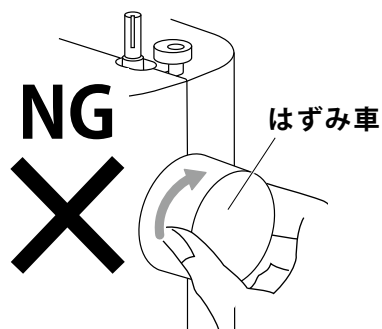
⚠ 注意

・『天びん』が下がっていると糸が引き出されません。

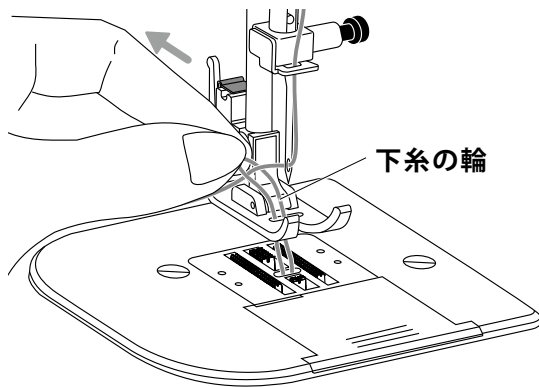


・『はずみ車』を後ろ側に回すと『下糸の輪』が引き出されません。

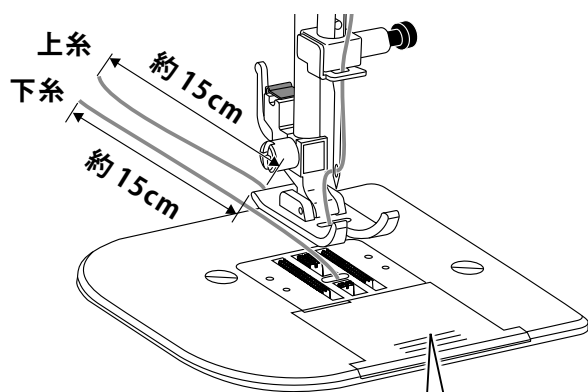
< ミシン右側面 >



【4】 上糸を左上側に引き、『下糸の輪』を引き出します。



【5】『下糸の輪』をつまみ、下糸を引き出します。

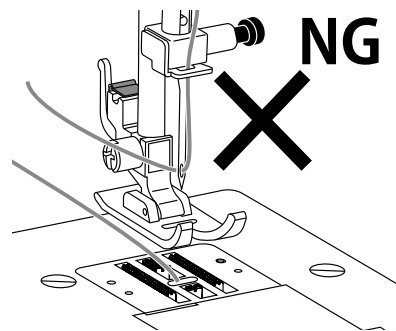


【6】上糸と下糸をそろえ『押え』の下に通し
15cm 程を後ろ側に引き出します。

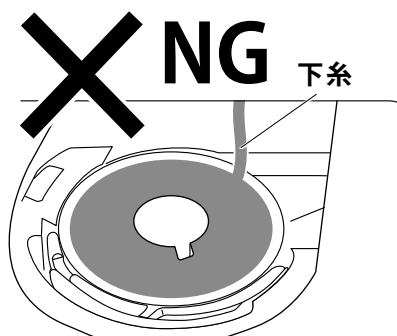


注意

- ・糸が 15cm 以下の場合、縫い始めに針から上糸が抜けて内部に引っかかりミシンが動作しないことがありますので必ず 15cm 以上引き出してください。
- ・『押え』の上に糸があると縫い始めに糸が絡む可能性がありますので、糸は『押え』の下に通してください。

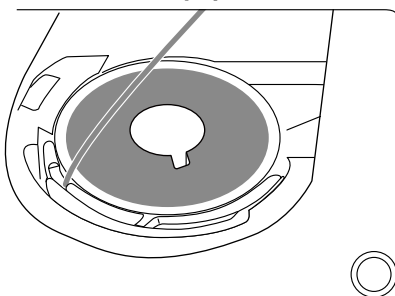


- ・『ボビンケース』に下糸がかかっていないと糸調子が合わなくなります。もう一度『ボビン』を取り出しセットしてください。
(P17の下糸のセットを参照してください)



< ボビンケースの拡大図 >

下糸



『ボビン』の左上に下糸が通っている状態が正しい位置です。



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



・ACアダプターは必ず純正品を使用する。

ポイント！

●ミシンをより快適に使うために

＊縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。

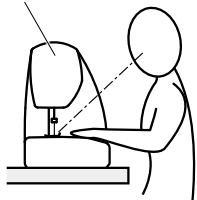


注意



・安定した場所にミシンを設置する。・作業スペースを十分に確保する。
・周囲に物を置かない。
はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガをする恐れがあります。

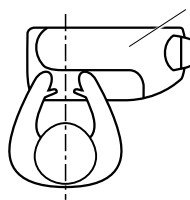
ミシン



針先が無理なく見える位置に
ミシンを設置してください。

針の中心

ミシン



針の中心と身体の中心が
一致するようにミシンを
設置してください。
＊中心がずれてしまうと布も
ずれて進んでしまいます。

【1】『電源スイッチ』を『○』側に押し電源を切ります。

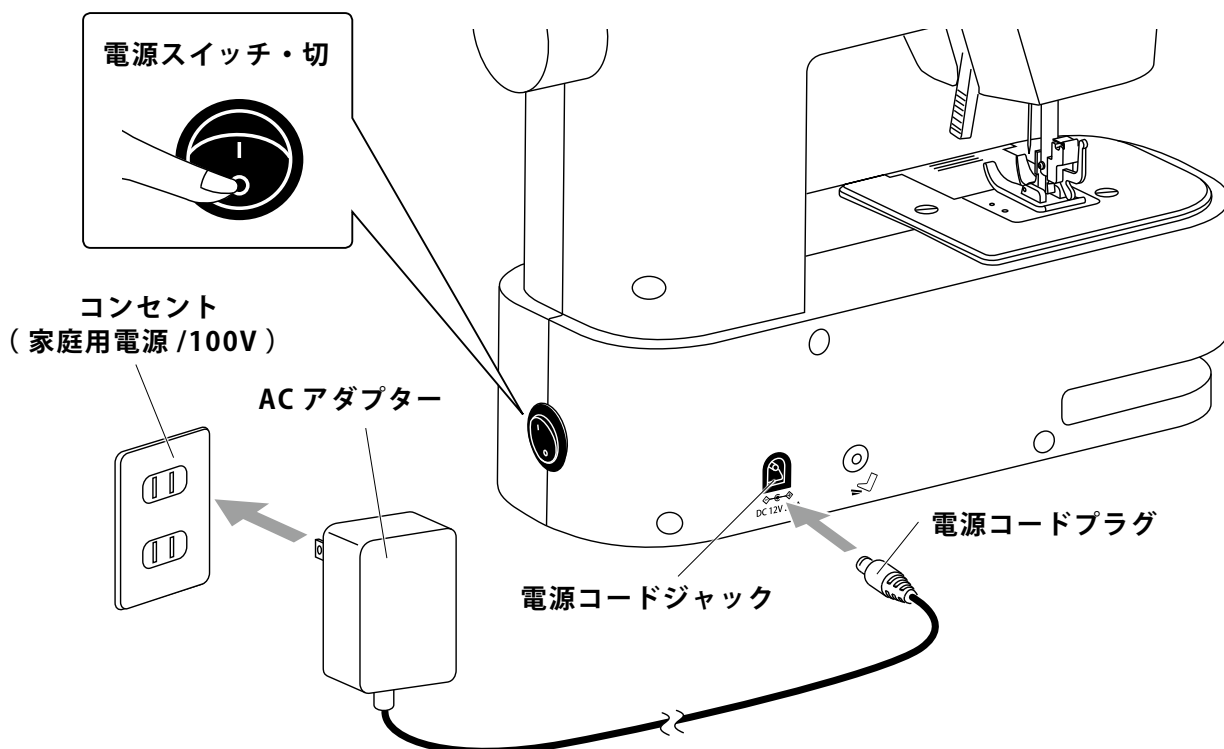
【2】『電源コードプラグ』をミシン本体の『電源コードジャック』に確実にさし込みます。

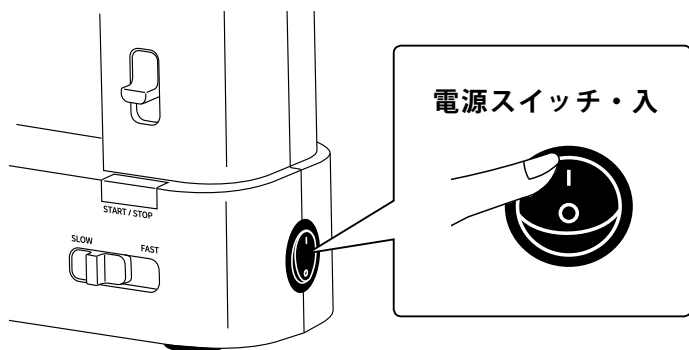
【3】『ACアダプター』を『コンセント（家庭用電源 / 100V）』に確実にさし込みます。



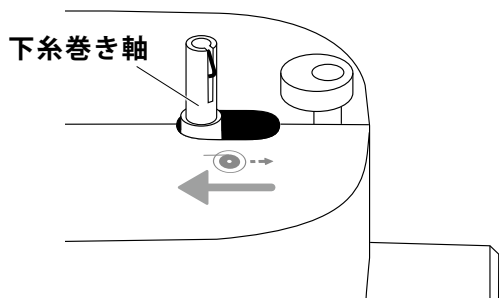
注意

『ACアダプター』を使用しているときは、電池は必ず抜いてください。

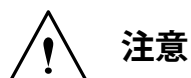




【4】『電源スイッチ』を『I』側に押し、電源を入れます。

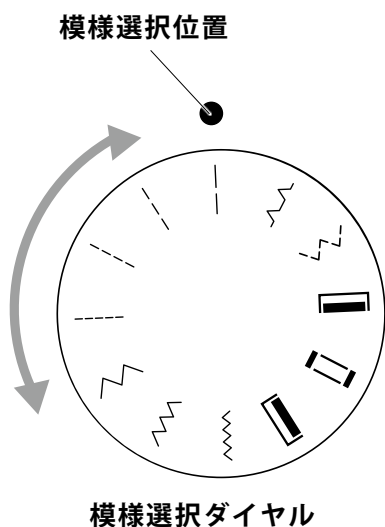


【5】『下糸巻き軸』が左側になっていることを確認します。

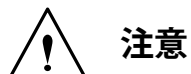


注意

『下糸巻き軸』が右側にあると針は動きません。

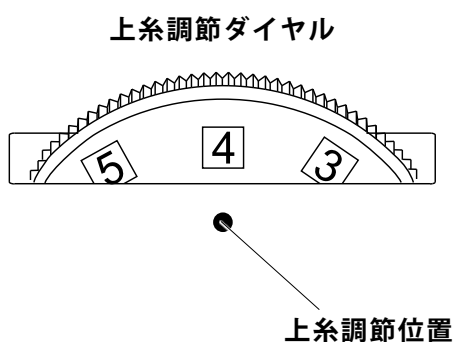


【6】縫い模様を選びます。
(P9 の模様選択を参照してください)

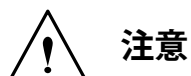


注意

針が布に刺さった状態で『模様選択ダイヤル』を回さないでください。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



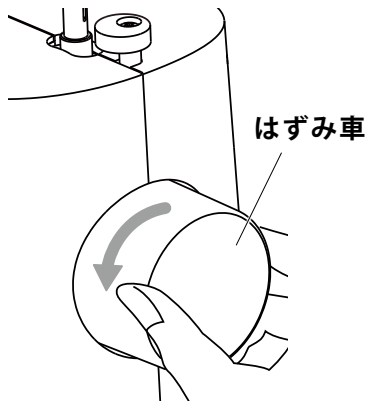
【7】『上糸調節ダイヤル』を『4』に合わせます。



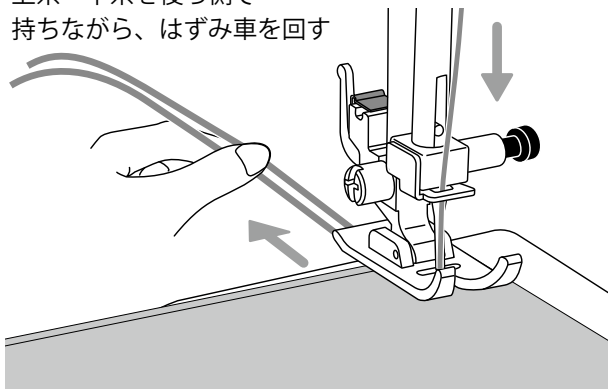
注意

布の厚さや種類によって
『上糸調節ダイヤル』を回し調節します。
(P36 の糸調子の合わせかたを参照してください)

< ミシン右側面 >



上糸・下糸を後ろ側で
持ちながら、はずみ車を回す

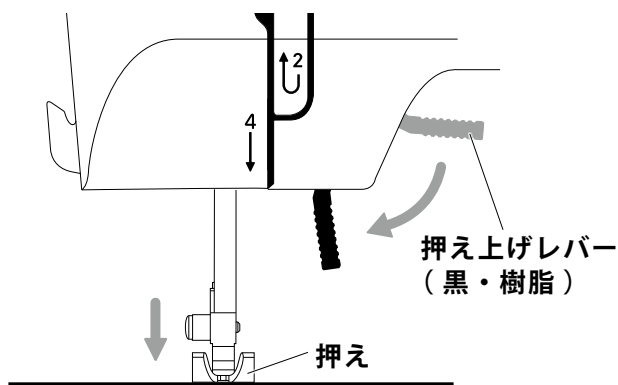
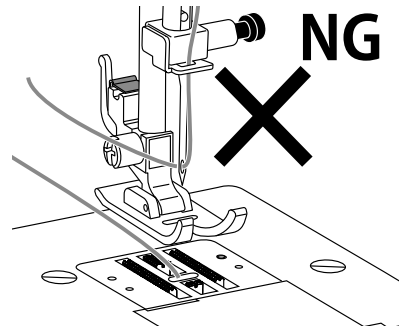


【8】 布を『押え』の下に置き、上糸と下糸をミシンの後ろ側で持ちながら『はずみ車』を手前に回して、縫い始める位置に針を刺します。

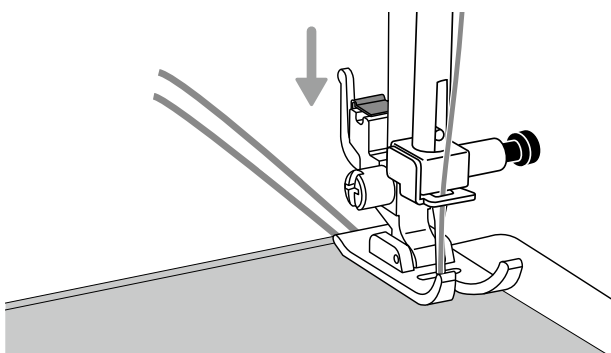


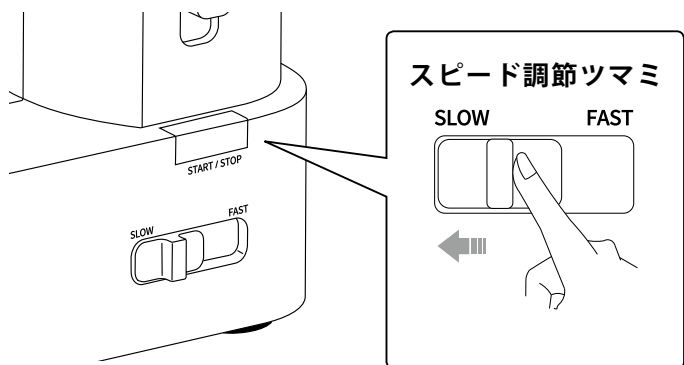
注意

- ・上糸と下糸をミシンの後ろ側で持ちながら針を刺さないと、縫い始めるときに糸絡みが発生します。
- ・上糸が 15cm 以下の場合、縫い始めに針から上糸が抜けて内部に引っかかり、ミシンが動かなくなることがありますので、必ず 15cm 以上引き出してください。
- ・『押え』の上に糸があると縫い始めに糸が絡む可能性がありますので、糸は『押え』の下に通してください。



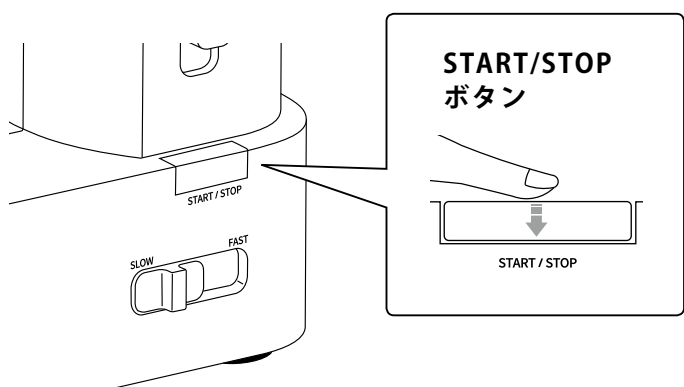
【9】 『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を下げます。





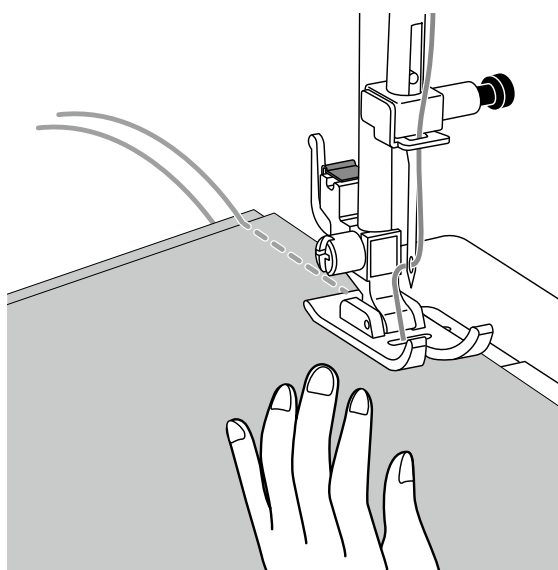
【10】『スピード調節ツマミ』を『SLOW』に合わせます。

* ミシンの速度に慣れるまで縫う速度は『SLOW』で縫ってください。



【11】『START/STOP ボタン』を上から押すと縫い始めます。

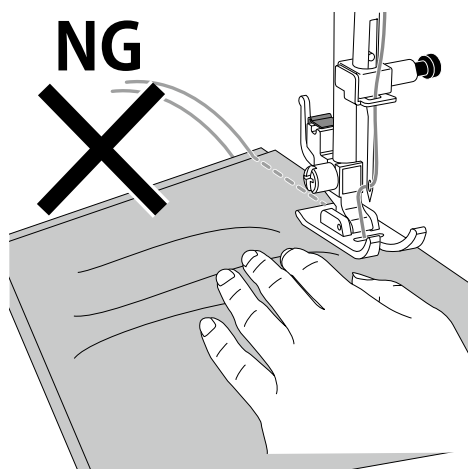
【12】布に手を軽くそえ、布の進む方向を修正します。

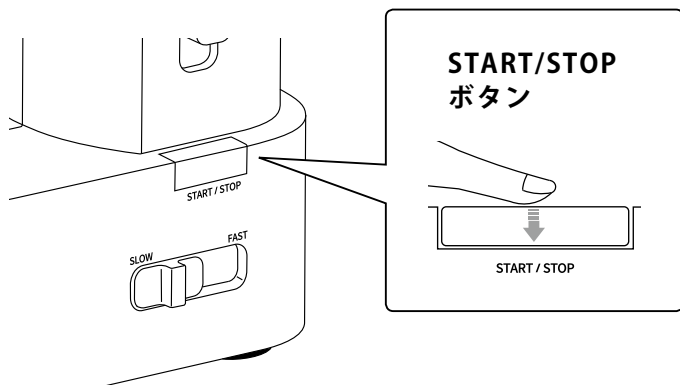


布に手を軽くそえる

⚠ 注意

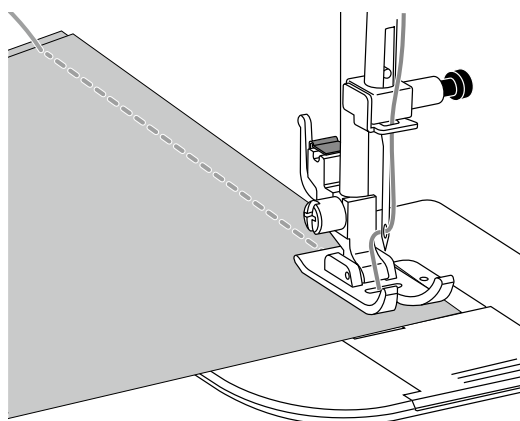
- ・『START/STOP ボタン』は強く押さないでください。
- ・布に手をそえるときは、押し進めないでください。





【13】縫い終わりまで縫ったら『START/STOP ボタン』を上から押し、ミシンを止めます。

*『START/STOP ボタン』は軽く押すだけでミシンは止まります。

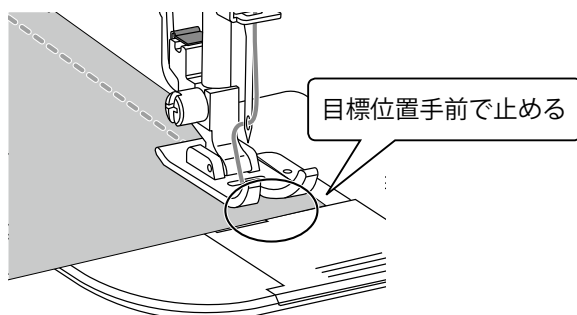


注意

『START/STOP ボタン』は強く押さないでください。

ポイント！

縫い方向を変えるとき、返し縫いをするとき布の端を越えてしまわないように注意します。

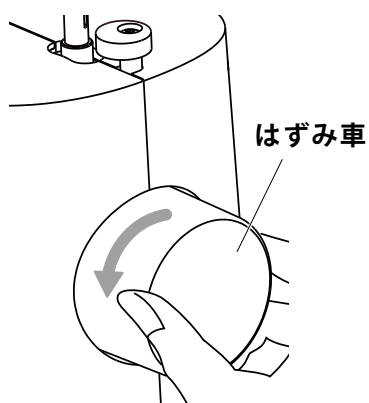


【1】目標位置手前で止めます。

【2】目標位置まで『はずみ車』を回して縫い進めます。

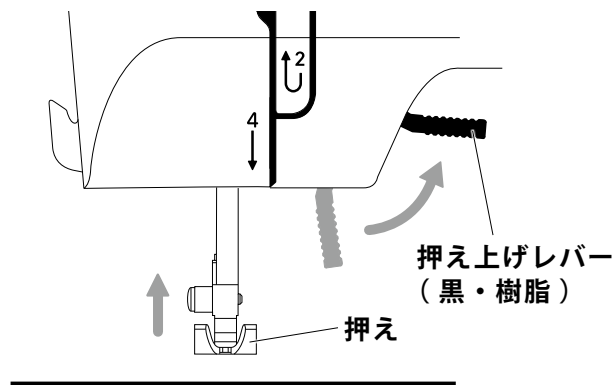
【3】『はずみ車』を回し、針を刺します。

< ミシン右側面 >

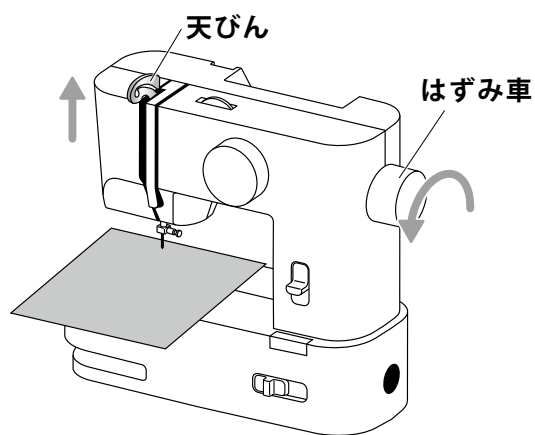
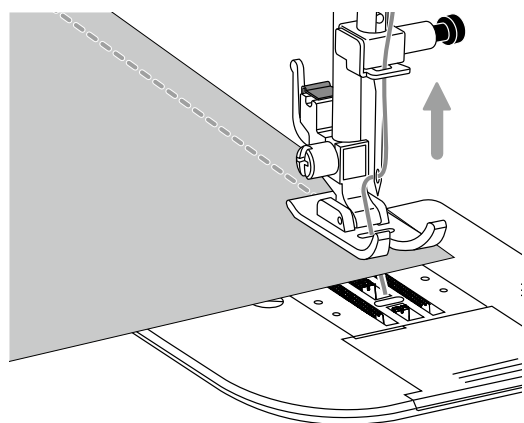


注意

針と『天びん』を一番上まで上げないと布をスムーズに引き出すことができません。



【14】『押え上げレバー (黒・樹脂)』で『押え』を上げます。



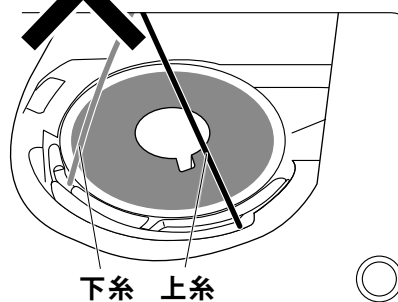
【15】針と『天びん』が一番上まで上がっているかを確認し、布を引き出します。

* 針と、『天びん』が一番上まで上がっていないと糸がカマの内部に引っかかり、スムーズに糸を引き出すことができません。

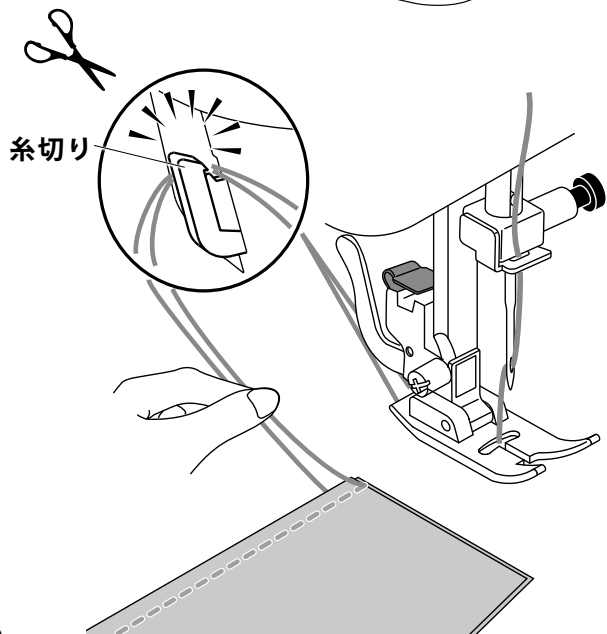
 **注意**

針が上がっていても『天びん』が上がっていない場合は上糸が下記の位置で止まることがあり、布をスムーズに引き出すことができません。

X NG



【16】『糸切り』で糸を切ります。



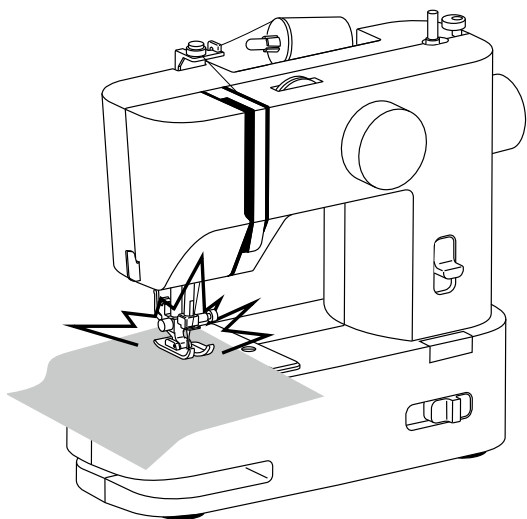
●糸が絡んでしまったときは



注意



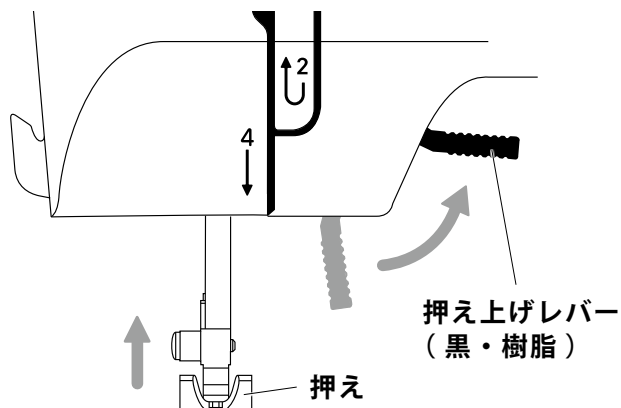
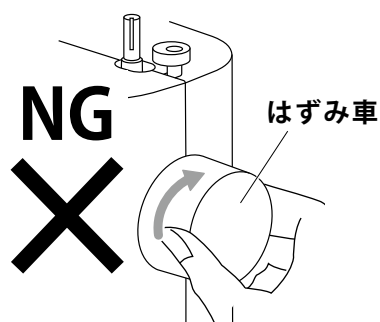
- ・縫っているとき途中で止まったり、針が刺さらなくなったときは動かさないでください。
- ・布を無理に引っ張ったり、『はずみ車』を回さないでください。故障の原因になります。



注意

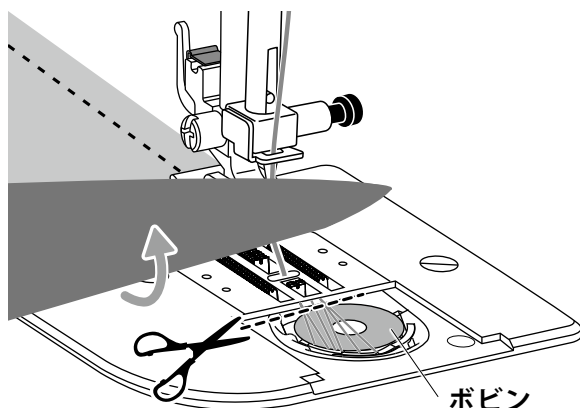
縫っているとき途中で止まったり
針が刺さらなくなったときは
『はずみ車』を回さず、以下の作業を
行ってください。

< ミシン右側面 >



【1】『電源スイッチ』を『○』側に押し、電源を切ります。

【2】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で
『押え』を上げます。

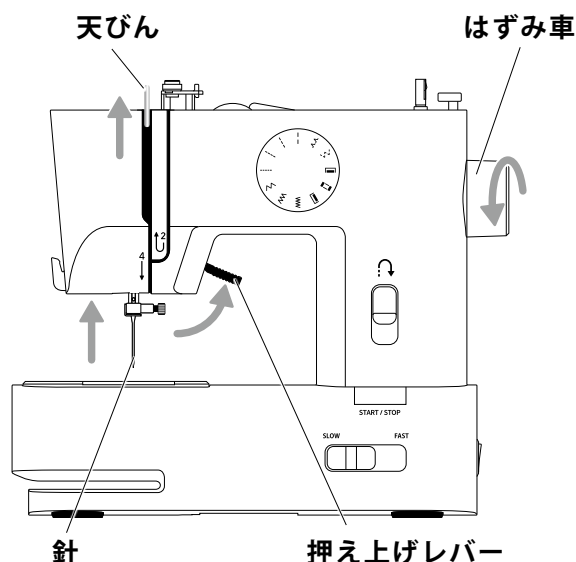


絡んだ糸をハサミで切ります。

【3】『すべり板』を開きます。

【4】 カマの中で絡んだ糸を切ります。

【5】『はずみ車』が軽く回ることができたら
針を上げて布を取り出します。



【6】『ボビンケース』に糸が絡むのは
上糸のかけかたに原因があることがほとんどです。
全ての糸を取りはずし『天びん』『針』『押え』を
上げた状態で上糸を正しくかけ直してください。

* 試し縫いの縫い始めは必ずはずみ車を手で回して
縫ってください。

* 30 番以上の太い糸は使用できません。

* P38 の糸、針、布の関係を見直してください。

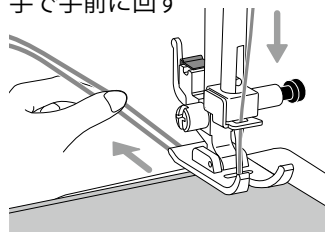
* 上糸をかけ直しても改善しない場合は P49 のカマの
そうじを参照してください。

●天びんや内部への糸の巻き込みに注意してください。

糸のかけかたや操作によって、『天びん』に糸が絡んでしまう場合があります。
下記に注意してください。

- 縫い始めに上糸と下糸をミシンの後ろ側で持たないと
ミシンを作動させたときに針から糸が抜けて糸が内部に
巻き込まれる場合があります。

上糸・下糸を後ろ側で持ちながら、はずみ車を
手で手前に回す



- 天然素材の絹（シルク）や綿の糸（カタン糸）は保存状態により異なりますが
約 1 年で劣化し始めます。劣化した糸は切れやすく、切れた糸が内部に巻き込
まれる場合があります。

ポイント！

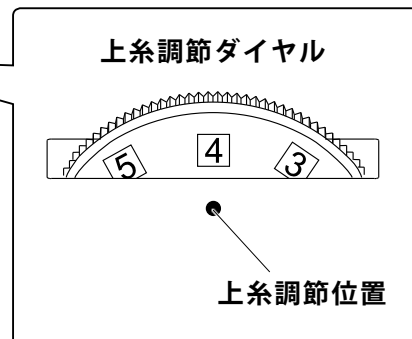
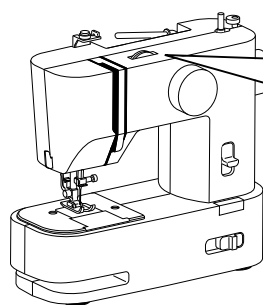
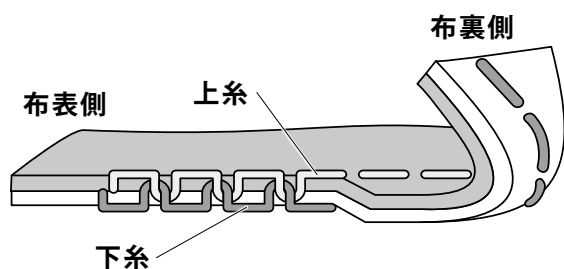
縫製中に異常な音、糸切れや目飛び、糸絡み、布が噛み込んだなどが発生した場合はすぐにミシンを
停止させてください。布を取りはずし、糸が絡んでいる場合は絡んでいる糸を切り、ミシンから糸を
全てはずし、再度糸を正しくかけ直してください。

糸調子の合わせかた

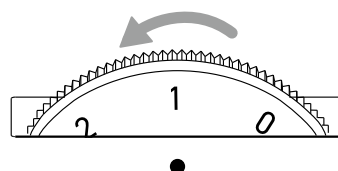
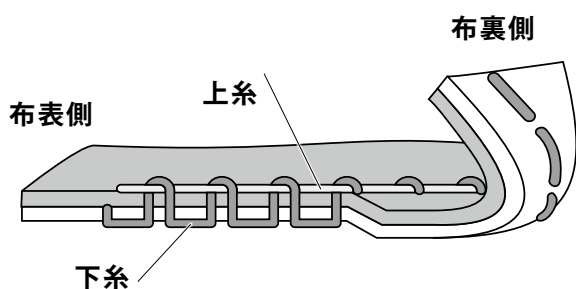
糸調子が合わない場合は、『上糸調節ダイヤル』を回し調節してください。

＊『上糸調節ダイヤル』を変えても糸調子に変化が見られない場合『ボビンケース』に下糸が正しくかかっていないことが原因です（P17の下糸のセットを参照してください）

- **正しい糸調子** 上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。



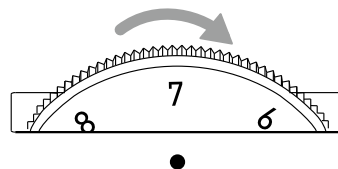
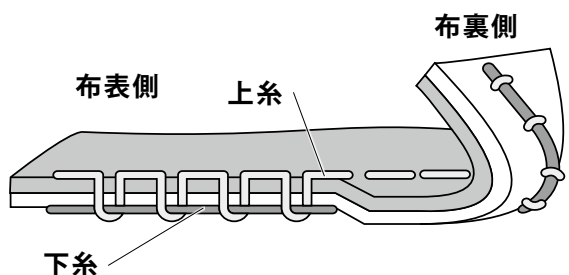
- **上糸が強いとき** 下糸が布の表に出ています。



下糸が布の表に出る場合
『上糸調節ダイヤル』を数字の
小さくなる方に回します。

＊下糸のボビンが正しくセットされているかの確認もしてください。
(P17の下糸のセットを参照してください)

- **上糸が弱いとき** 上糸が布の裏に出ています。

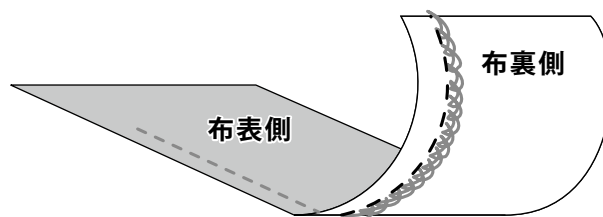


上糸が布の裏に出る場合
『上糸調節ダイヤル』を数字の
大きくなる方に回します。

＊上糸のかけかたが間違っていないかの確認もしてください。
(P19の上糸の準備を参照してください)

● 布の裏側の糸がタオル状になるときは

- ・上糸のかけかたが間違っている（P19）
- ・上糸の糸調子が弱過ぎる（P36）
- ・『押え上げレバー』が上がっている（P10）
- ・ボビンの種類が異なる（P17）
- ・『カマ』や『針板』に傷がある（P49）

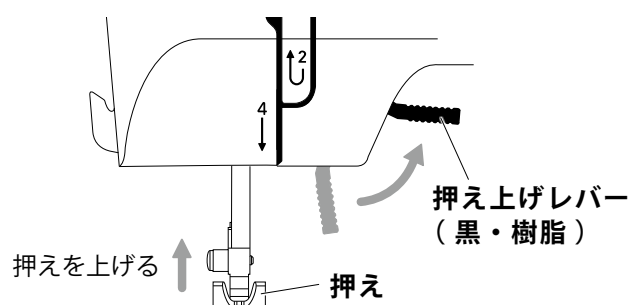


ポイント！

『押え』を上げ、上糸を全てはずし、再度上糸を正しくかけ直してください。

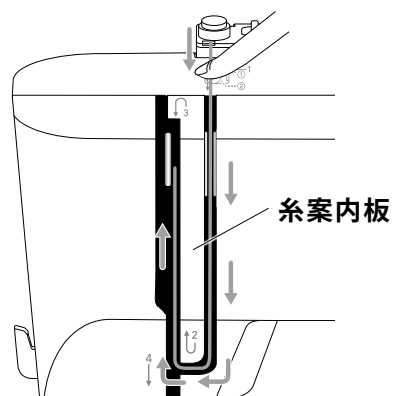
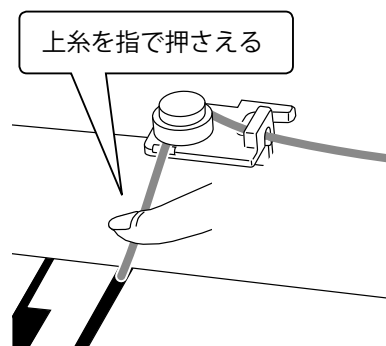
（P19の上糸の準備を参照してください）

上糸を再度かけ直すとき、下の図に注意してください。



『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を上げます。

*『押え』が下がったままでは正しく糸はかかりません。



上糸を押さえながら『糸案内板』に
そってミゾの奥にしっかり糸を通します。

糸、針、布の関係



注意



・表に記載している糸以外は使用しないでください。
故障の原因になる恐れがあります。

このミシンは普通布に適した 14 番の針が標準装備されています。

- 下記の表は参考です。必ず試し縫いをして、縫い目をご確認ください。

	布の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号	
薄布	一般裏地、ローン、レース ジョーゼット、キュプラ オーガンジーなど	9、11 番	綿 絹 化繊糸	60 ～ 100 50 ～ 90 60 ～ 90
普通布	一般布、ブロード、ソフトデニム サテン、パイル、ギンガム など	11、14 番	綿 絹 化繊糸	60 ～ 90 50 ～ 90 60 ～ 90
厚布	キルティング、*フリース ツイード、フェルト、デニムなど	14、16 番	綿 絹 化繊糸	50 50 50 ～ 60
伸縮布	ニット、スパンデックス トリコット、ジャージ など	ニット用針 11、14 番	綿 化繊糸 ニット用糸	60 50 ～ 90 50 ～ 90

- 針は数字が大きくなるほど太くなります。 ● 糸は数字が大きくなるほど細くなります。
(針の交換方法は P48 の針の交換を参照してください)
- きれいに縫うためには、布に合った針と糸をご使用ください。(上記の表を参照してください)
上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。
- 針は 14 番のみ付属しています。9 番、11 番、16 番の針、ニット用針は付属しておりません。
- 針は家庭用ミシン針 (HA × 1)、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。
* フリース、ベルベット、バスタオルなどの毛足が長い布は、縫製に技術が必要なので推奨できません。
* カタン糸、ニット用糸、テグス糸 (透明) の糸は、縫製に技術が必要なので推奨できません。
- 厚い布や固い布は、針が刺さりにくく止まってしまうことがあります。
その時は『はずみ車』を手前に回しながらゆっくり縫い進めてください。
(手で回しても固いときは、『はずみ車』を無理に回さないでください。故障の原因になる恐れがあります)
- 糸こまに傷 (バリ) や突起があると糸が引っかかり、うまく縫えない場合があります。
糸がスムーズに流れるように『糸こま押え』のサイズや糸の設置方法に注意してください。
(P12、P20 の糸こまの種類に合わせて、糸こま押えのサイズを選んでくださいを参照してください)
糸こまの形状によって糸が繰り出せないこともあります。

悪い例：糸止めカットに糸が引っかかっている。



悪い例：糸こま押えに糸が引っかかっている。



- 糸は古くなるに従い劣化して切れやすく糸が引きにくくなります。
(天然素材の絹の糸 (シルク糸) や綿の糸 (カタン糸) は保存状態により異なりますが、約 1 年で劣化し始めます)
- ミシン糸と手縫い糸では糸の撚り (ねじれ) 方向が異なります。手縫い糸 (右撚り) はミシンでは使用できません。
ミシン糸と表記のある糸でも右撚りになっている糸もありますので注意してください。

返し縫い



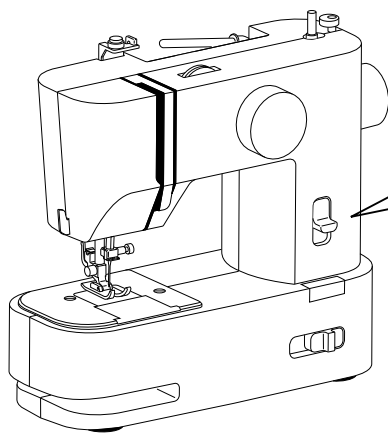
注意



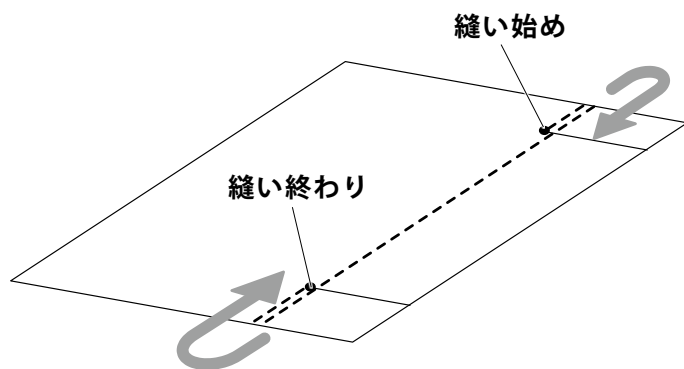
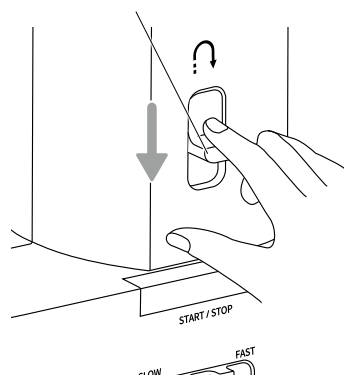
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



・針が布に刺さった状態で返し縫いレバーを押さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



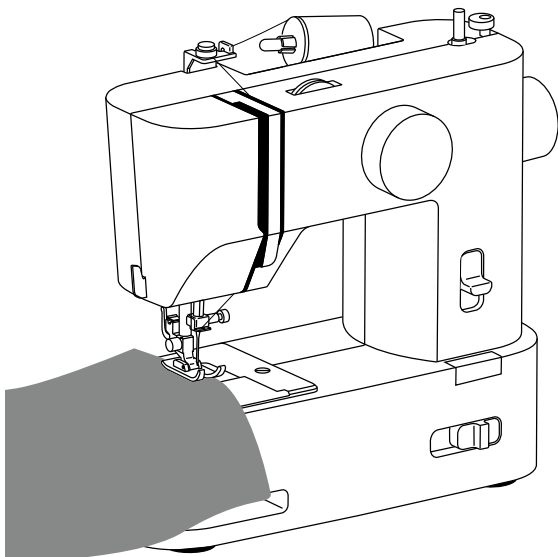
返し縫いレバー



ミシンが動いているときに『返し縫いレバー』を
押している間は後進縫いになり、
『返し縫いレバー』から手を放すと前進縫いに戻ります。

* 縫い始めと縫い終わりに返し縫いをすると
ほつれ止めになります。

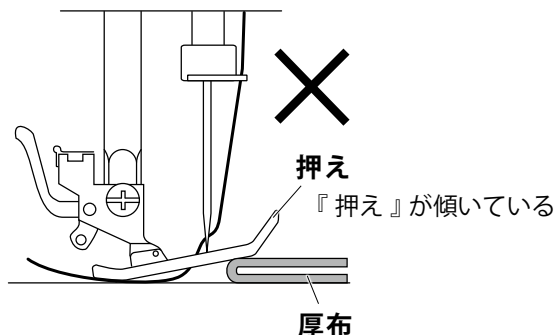
フリーアーム



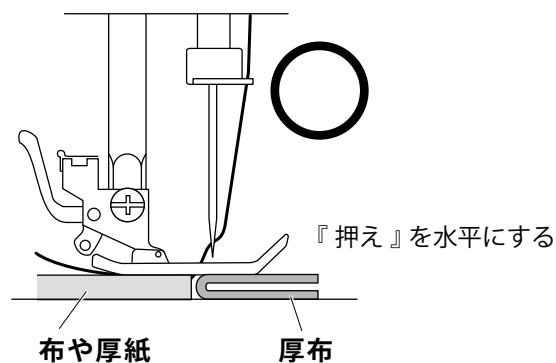
ズボンの裾や袖のような筒状のものを
左側からさし込んで縫うことができます。

厚い布や段差を縫う

- ・厚い布は、布を貫通する力が必要なため、『電池』ではなく『ACアダプター』をご使用ください。
- ・厚い布や固い布は模様選択を『送り長さ・最大』にしてください。
- ・厚い布や固い布は、針が刺さりにくく止まってしまうことがあります。
その時は『はずみ車』を手前に手で回しながらゆっくり縫い進めてください。
(手で回しても固いときは、『はずみ車』を無理に回さないでください。故障の原因になる恐れがあります)



- 【1】 厚い布を布の端から縫い始めるときやカバンなどの持ち手を縫うときに『押え』が傾くと布が進まなくなることがあります。

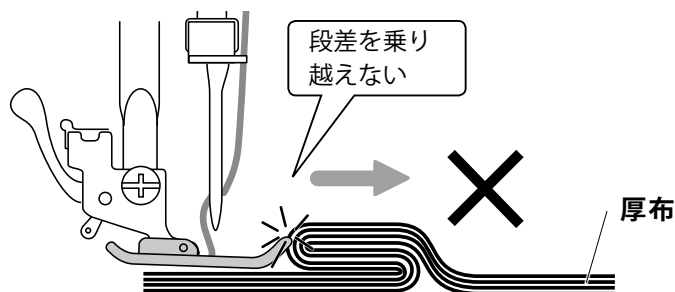


- 【2】 その場合、『押え』の下に布と同じ厚さの布や厚紙を置き、傾きをなくすと順調に縫い始めることができます。

ポイント！

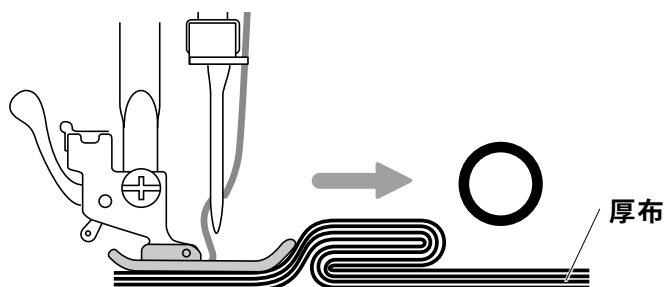
- ・タオル布を縫うときは、両端の耳を切り落としてから縫ってください。
- ・厚い布を縫うときの糸は、50、60 番をご使用ください。30 番の糸は使用しないでください。
- ・厚い布を縫うときは、市販の家庭用ミシン針：16 番を使用されることを推奨します。
(家庭用ミシン針：16 番は付属しておりません)

● 厚い布の段差



【布が送りにくい】

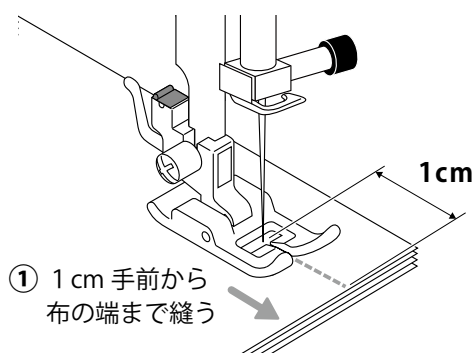
厚い布の折り重なった部分の方向に注意してください。
『押え』が布に引っかかり縫い進むことができません。



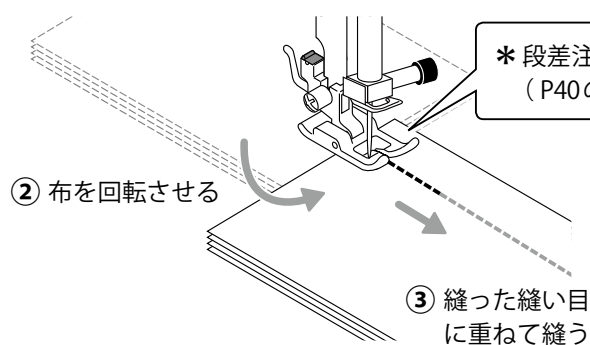
【布が送りやすい】

坂から縫うほうが縫いやすいです。

● 厚い布の返し縫い

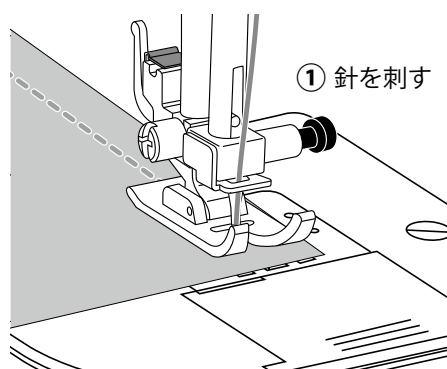


- 【1】 布の端から 1cm 手前のところに針を刺しそこから布の端まで縫います。

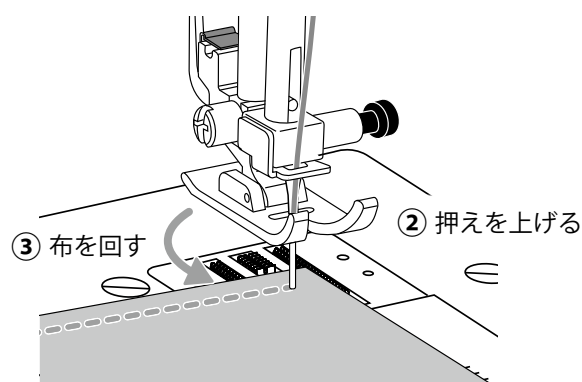


- 【2】 針を刺した状態のまま『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を上げて、布を回転させます。
- 【3】 『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を下げます。先ほど縫った縫い目に重ねて縫います。

縫い方向の変えかた



- 【1】 布の角まで縫い、ミシンを止め『はずみ車』を手前に回し、針を布に一番深く刺します。



- 【2】 『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を上げます。
- 【3】 針を軸に布を回し、縫い方向を変えます。
- 【4】 『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を下げ、縫い始めます。

ジグザグ縫い／縁かがり縫い

布の端のほつれを防止します。



注意

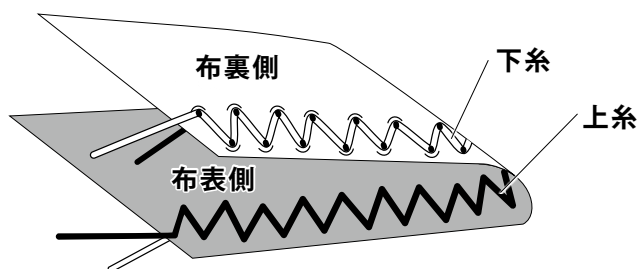


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



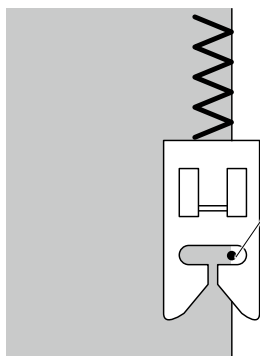
・針が布に刺さった状態で模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

模様表示



●ジグザグ縫い

- 【1】『模様選択ダイヤル』で、ジグザグ模様を選択します。
- 【2】『押え』を下げ、縫い始めます。



針を右側にして、針が刺さる位置を少し内側にするときれいに仕上がります。
(特に薄布の場合)

●縁かがり縫い

- 【1】『模様選択ダイヤル』で、ジグザグ模様を選択します。
- 【2】『はずみ車』を手前に回して針が右側のときに、布の端より針が少しはずれるように布を置き、『押え』を下げ、縫い始めます。

伸縮布を縫う

縫い目が飛ぶときは、市販の家庭用ニット用針をご使用ください。
*『家庭用ニット用針』は付属していません。



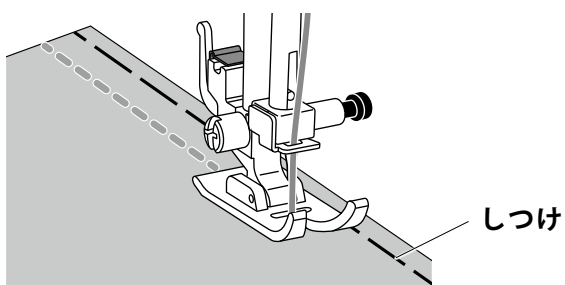
注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



・針が布に刺さった状態で模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



縫い合わせる布がずれないように『しつけ』をして布に手をそえて縫います。

まつり縫い（裾上げ）

スカートやズボンの裾上げをするときに用います。
布の表面に目立たない縫い目です。



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

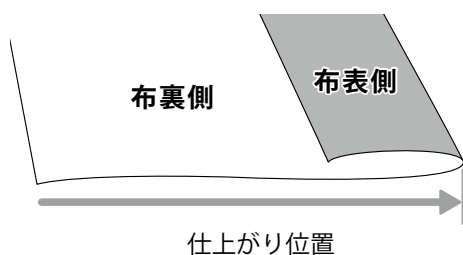


・針が布に刺さった状態で模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

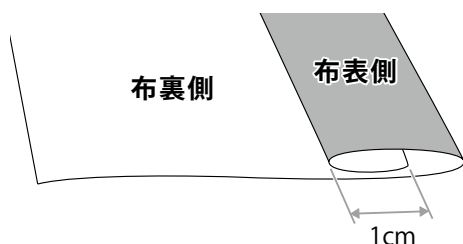
● 布の折りかた

＊布の折りかたや縫う位置を間違えると縫い目が表に見えてしまいます。

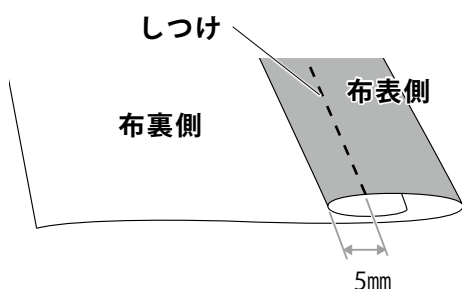
1枚布で折りかたを確認してから縫ってください。



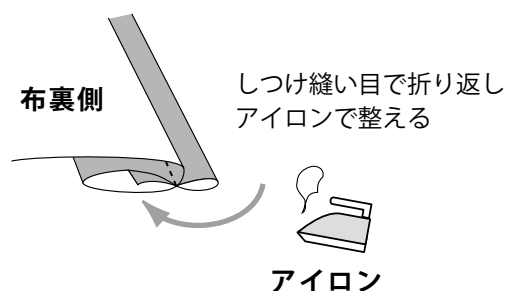
【1】仕上がり位置で折ります。



【2】布の端から1cm重なるように折ります。

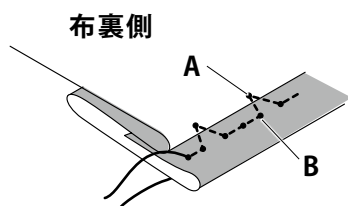
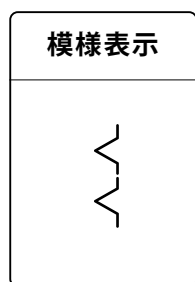


【3】5mmの位置でしつけをします。



【4】図のようにしつけの縫い目で折り返し、
アイロンで整えます。

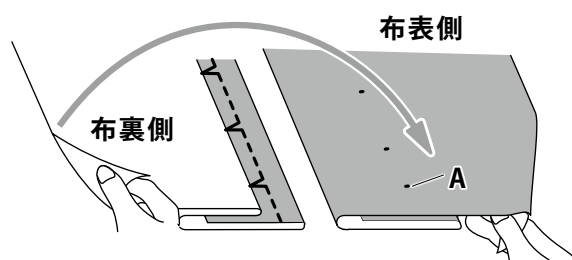
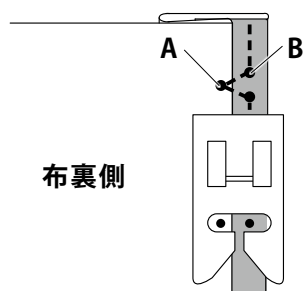
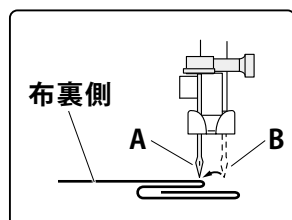
● 縫いかた



【5】 上下の糸を持ちながら『はずみ車』を手前に数針回し、針を左側でゆっくり下げます。布の折り山（A）にわずかに針がかかるように布の位置を合わせて縫います。

* A（左針）は1回、B（右針）は5回の動作で繰り返されます。針の位置を左に合わせるまで上下の糸を持ちながら動作させてください。

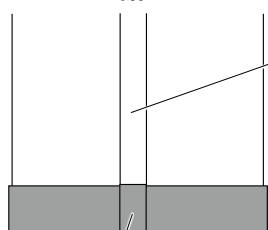
* 針がかかる量が少ないほど、表面に目立ちにくくなります。また、布の折り山に針がかかると仕上がりが目飛びをします。



【6】 布を返し、しつけ糸を抜きます。

ポイント！

ズボンの裾上げ



身頃合わせ

折りがたによっては6～9枚になります。

ズボンの裾上げをするときは身頃合わせは折りがたによっては6～9枚になり、段差で『押え』が引っかけやすくなります。段差は『はずみ車』を手で回してゆっくり縫い進めてください。

ボタンホール縫い

ボタンの大きさにあったボタンホールを縫うことができます。



注意



・押えの交換は電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとケガをする恐れがあります。

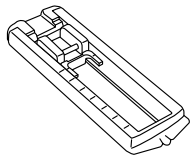


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

・縫い損じを防ぐため、製品に縫う前は必ず別の布でボタンホールを作り
ボタンが通るか確認してください。

押え

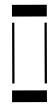
模様表示



ボタンホール押え



1



2/4

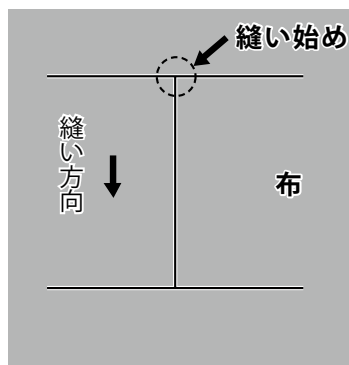


3

ポイント！

* 伸縮性の布や薄い布は不織布（芯地）を裏に貼るとより
きれいに仕上がります。

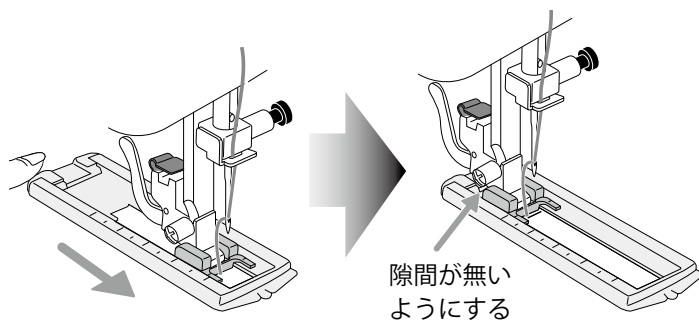
* 布に段差があるとボタンホールが正しく縫えないことが
あります。



【1】 ボタンの大きさと厚さ、布の種類に応じてボタンの
穴の長さを決め、ボタンホールを作る布に印を
付けます。

* 布に印を付けておくと、縫う方向を間違えません。

ボタンの穴の長さ = ボタンの直径 + ボタンの厚み

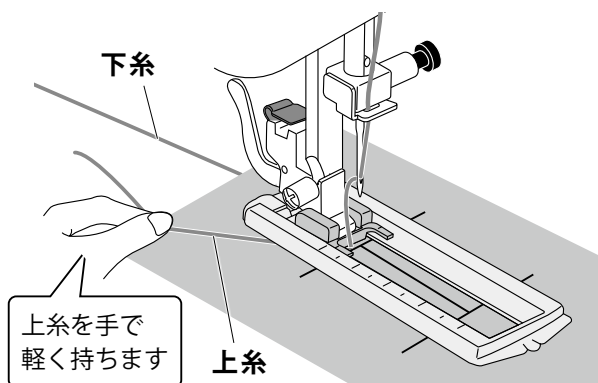


ボタンホール押えの枠を
手前に引き出す

隙間が無い
ようにする

【2】 『押え』を『ボタンホール押え』に交換し、
『ボタンホール押え』の枠を手前に引いておきます。
(P10 の押えの取りはずしかたを参照してください)

* 『ボタンホール押え』は『押え上げレバー』を
2 段目まで上げて交換してください。
(P10 の押え上げレバーを参照してください)



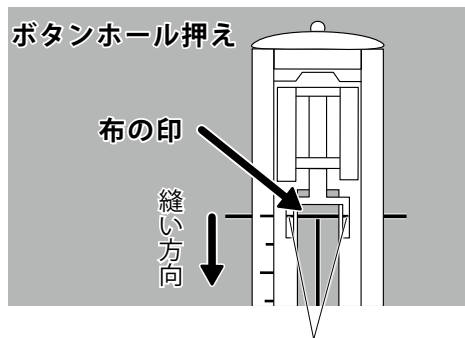
上糸を手で
軽く持ちます

上糸

下糸

【3】 上糸を『ボタンホール押え』の下に通します。

* 上糸と下糸は『押え』の後ろ側に出してください。



ボタンホール押えの赤い線

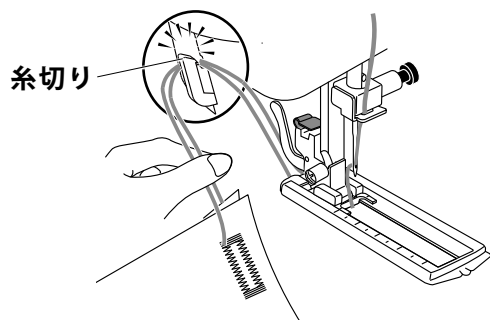
【4】 布に付けたボタンホールの印と『ボタンホール押えの赤い線』を合わせて、布を置きます。『押え上げレバー』で『ボタンホール押え』を下げます。

* 布が斜めになっていると、ボタンホールが布に対して斜めに作られますのでご注意ください。

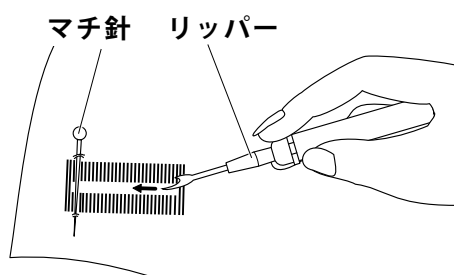
【5】 以下の手順で縫い始めます。

1. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様 1』を選択し、上糸を軽く持ち、ミシンを動かして縫い始めます。縫い始めから縫い終わりまで縫い、ミシンを止めて持っている上糸を切ります。
2. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様 2』を選択し、ミシンを動かして 5～6 針をかんぬき止めをしてミシンを止めます。
3. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様 3』を選択し、ミシンを動かして縫い終わりから縫い始めまで縫いミシンを止めます。
4. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様 4』を選択し、ミシンを動かして 5～6 針をかんぬき止めをしてミシンを止めます。

	1	2	3	4
模様				
縫いかた	縫い始め 縫い終わり	5～6 針を かんぬき止め	縫い始め 縫い終わり	5～6 針を かんぬき止め



【6】 『押え上げレバー』で『ボタンホール押え』を上げ『糸切り』で糸を切ります。



注意



・リッパーの先端に手をそえない。
ケガをする恐れがあります。

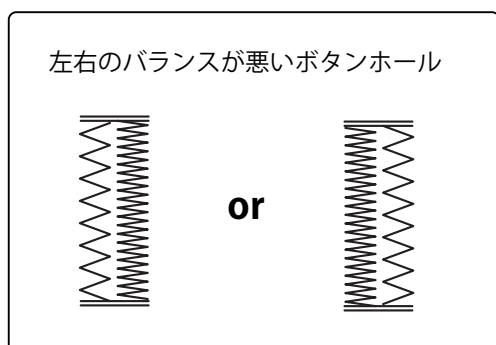
【7】 ボタンホールの穴に市販の『リッパー』を刺し押しながらボタン穴を切り開きます。

* マチ針をかんぬき部分に刺しておくとボタンホールの切り開き過ぎを防止します。

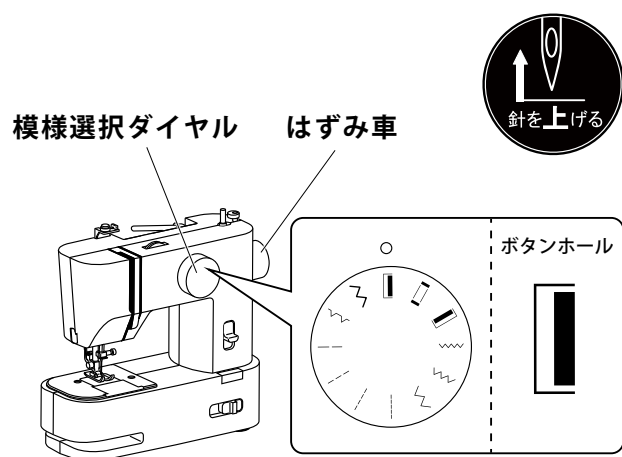
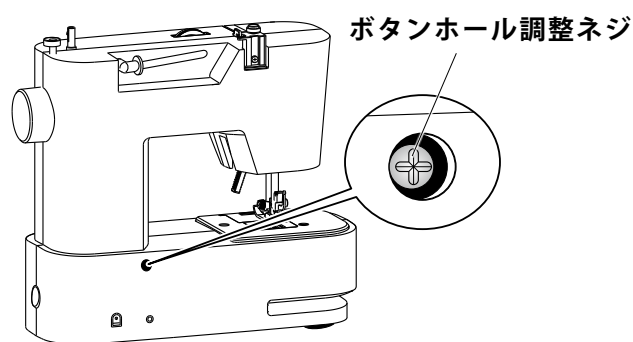
* 『リッパー』や、マチ針は付属しておりません。

● ボタンホールの左右縫い目のバランス調整

条件によって（布の種類など）ボタンホールの左右縫い目の長さに違いが現れることがあります。
このような場合、『ボタンホール調整ネジ』を調整することで、ボタンホールの左右縫い目の密度を調整することができます。



< ミシン背面 >



【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。

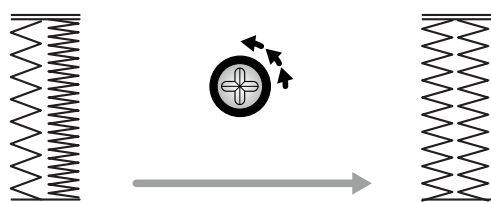
【2】『模様選択ダイヤル』を図のボタンホールの模様に合わせてみます。

* 他の模様を選択すると『ボタンホール調整ネジ』が正しい位置になりません。

正しい位置

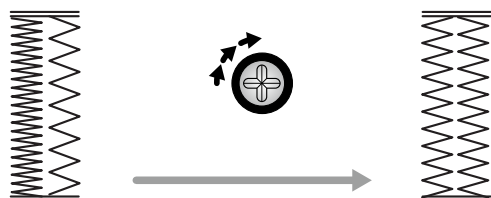


正しくない位置



【3】 ボタンホールの右側の縫い目が細かすぎる場合はミシンの背面の『ボタンホール調整ネジ』を左に回してください。

ボタンホールの右側の縫い目が粗すぎる場合はミシンの背面の『ボタンホール調整ネジ』を右に回してください



*『ボタンホール調整ネジ』を一度に 90°程回してから試し縫いをして様子を見ながら調整してください。
『ボタンホール調整ネジ』を回しすぎると、『ボタンホール調整ネジ』がはずれてしまいます。

* #2（先端が尖っていないタイプ）相当のプラスドライバーを使用してください。
（#2 のプラスドライバーは付属していません）

● 針の交換



注意



・電源スイッチを『○』にして電源を切り
ACアダプターをコンセントから抜くまたは電池をはずす。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

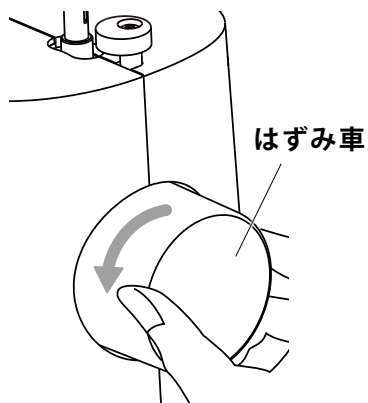


・針止めネジはしっかり締めます。
ミシン動作中に針が落下して、ケガをする恐れがあります。

・針は平らな面を後ろ向きに付ける。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。また、縫い目ができず縫えません。

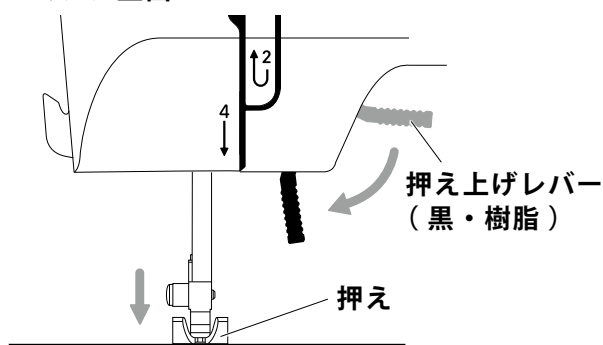
・針を交換するときは専用の針板ドライバーで交換する。
手で締めると縫っているときに針が抜け、ケガをする恐れがあります。

< ミシン右側面 >



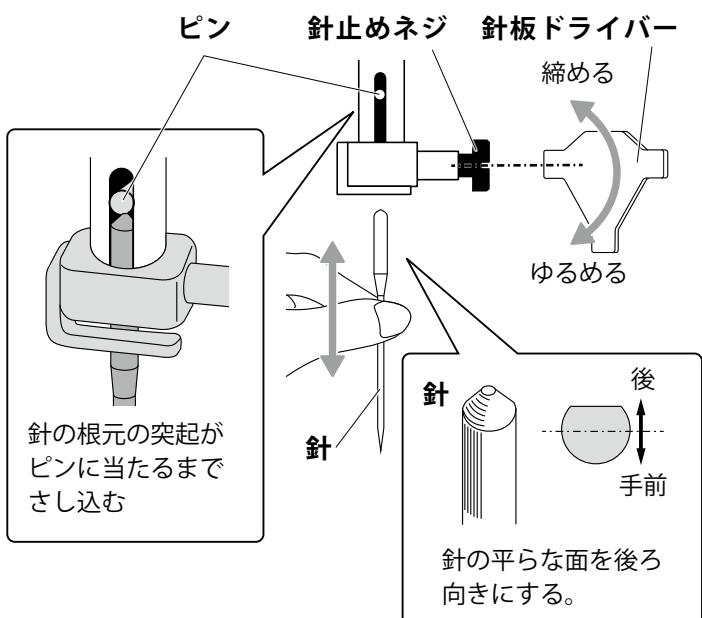
【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。

< ミシン正面 >



【2】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で
『押え』を下げます。

* 針が針穴に落下しないように『押え』の下に
紙などをしきします。



【3】付属の『針板ドライバー』を使用して
針を交換します。

・針のはずしかた
取り付けられている針を持ち、
『針止めネジ』を1～2回転程回し
ゆるめて針を下に引き抜きます。

・針の取り付けかた
新しい針の平らな面を後ろ向きに持ち
奥までさし込み、『針止めネジ』を
しっかり締めます。

* 針が根元のピンに当たる位置まで入って
いるか目で見て確認してください。

●正しい針の選びかた



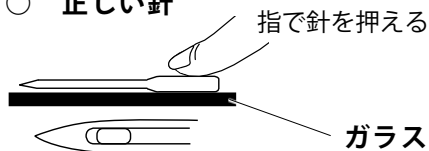
注意



・曲がった針は使用しないでください。
ケガをする恐れ、または故障の原因になります。

・家庭用ミシン針 (HA×1) を使用してください。

○ 正しい針



* ガラスのような平らな面に針を置き、針の曲がり具合を確認してください。

・目飛び、糸絡みする場合、針の不具合が考えられます。一度針を交換してください。

・不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、『針板』やカマに傷を付けます。
新しい針に交換してください。

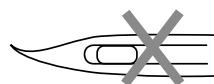
× 悪い針



全体に曲がっている



先端のつぶれ



先端の曲がり

●カマのそうじ

カマには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。
定期的にそうじをしてください。



注意

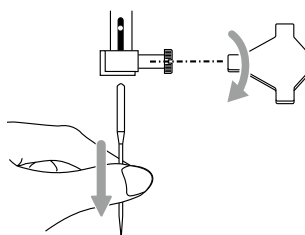


・電源スイッチを『○』にして電源を切り
AC アダプターをコンセントから抜くまたは
電池をはずす。
突然動くとケガをする恐れがあります。



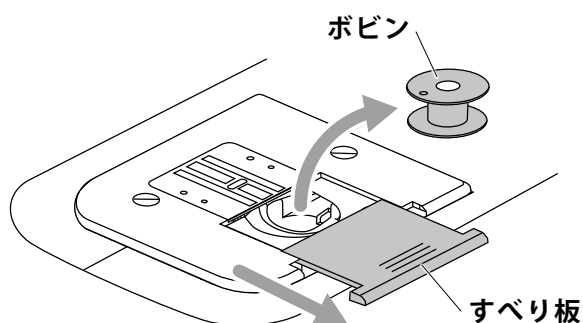
・説明書に記載してある以外の
修理、改造、分解は禁止。
ケガをする恐れ、または故障
の原因になります。

準備

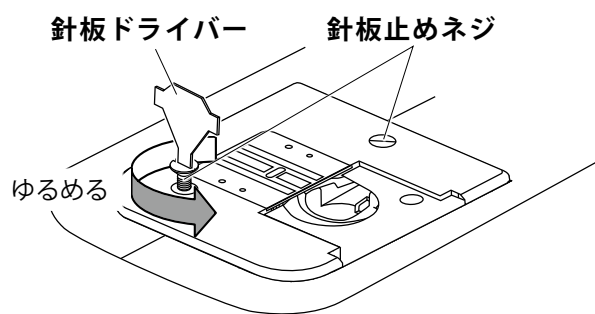


『押え』と『針』をはずします。
(P10 の押えの取りはずしかた
P48 の針の交換を参照してください)

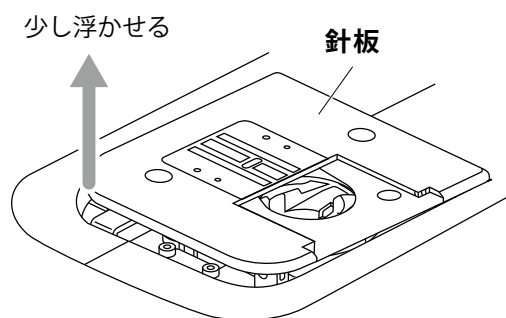
●針板、ボビンケースの取りはずしかた



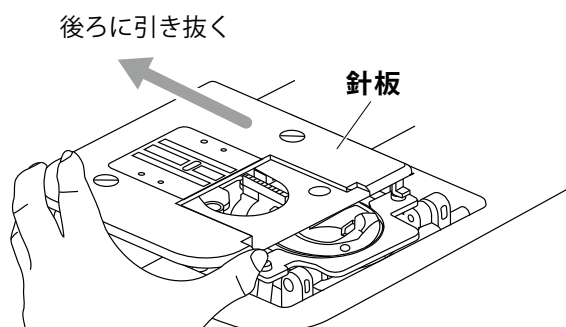
【1】『すべり板』と『ボビン』をはずします。



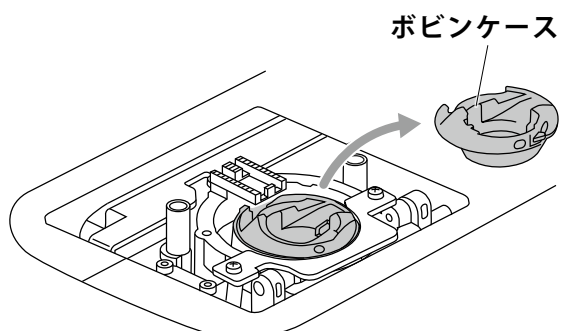
【2】 付属の『針板ドライバー』で『針板止めネジ』を2ヶ所はずします。



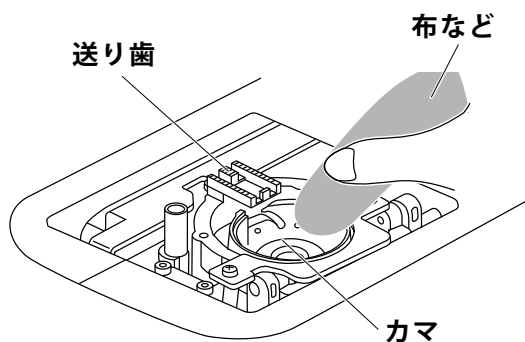
【3】 『針板』の後ろ側を少し浮かせます。



【4】 『針板』の後ろ側を浮かしまま後ろに引き抜きます。

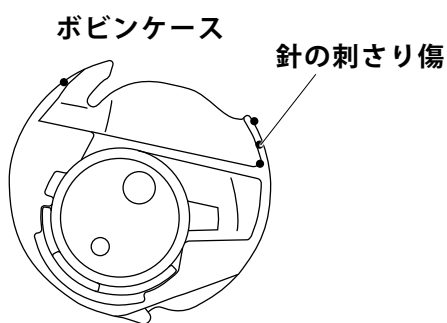


【5】 『ボビンケース』をはずします。



【6】布などで『カマ』や『送り歯』の糸くずやホコリを取り除きます。

＊『カマ』の先端は尖っているのでケガに注意してください。

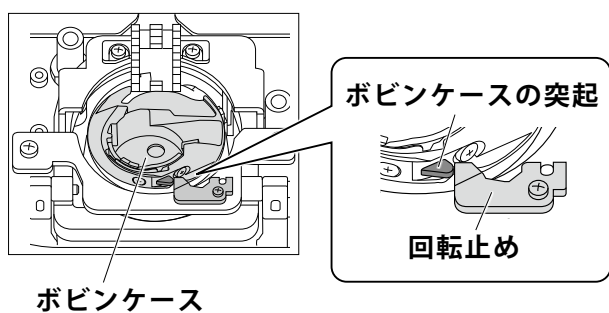


【7】『ボビンケース』に傷がないか確認し糸くずやホコリを取り除きます。

＊『ボビンケース』に針が刺さった傷があると糸が引っかかり、糸が絡んだりする可能性があります。

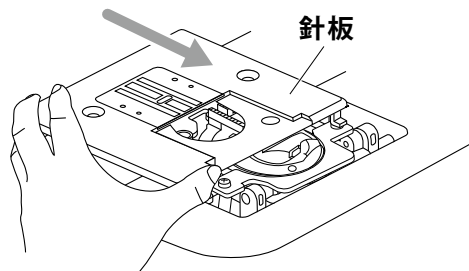
その場合『ボビンケース』の交換が必要です。P56のサービスセンターにお問い合わせください。

●ボビンケース、針板の取り付けかた

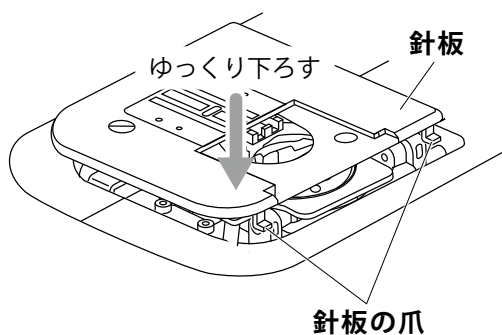


【1】『ボビンケースの突起』が『回転止め』に接触するように合わせます。

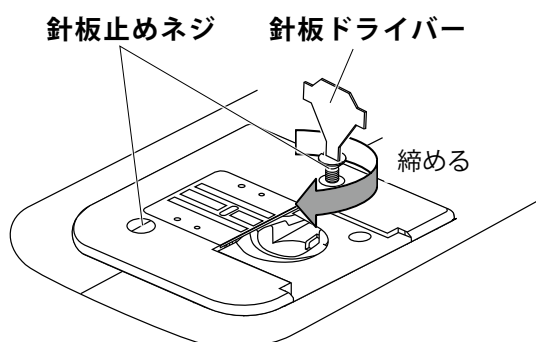
後方から手前に持っていく



【2】『針板』を後方から手前に持っていきます。

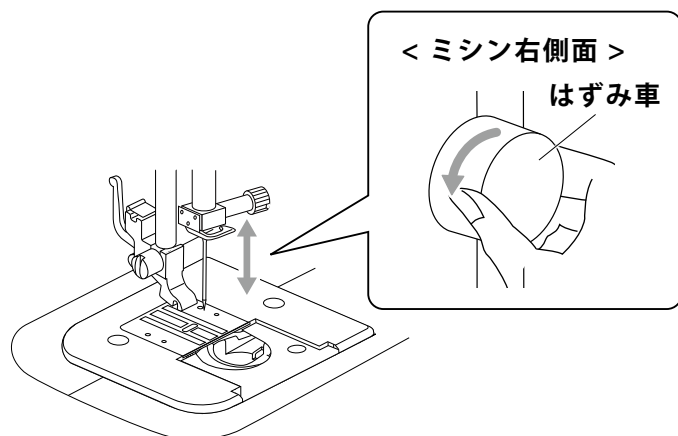


- 【3】『針板』をゆっくり下し、『針板』の裏の爪をミシン本体のカバーに引っかけるように取り付けます。



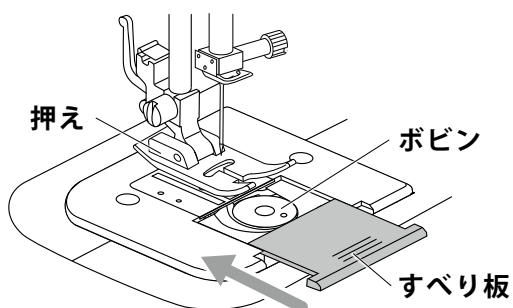
- 【4】付属の『針板ドライバー』で『針板止めネジ』を2ヶ所締め、『針板』を固定します。

*『針板止めネジ』がしっかり締まっていないと針が干渉したり、『ボビンケース』が動いてしまうなどのトラブルにつながります。



- 【5】針を取り付け、『はずみ車』を手前に回し針を上下させてスムーズに動くか確認します。
(P48 の針の交換を参照してください)

*『はずみ車』を手前に回してスムーズに動かないときは『針』『針板止めネジ』『針板』を取りはずし『ボビンケース』の位置を合わせ直してください。



- 【6】『ボビン』『すべり板』『押え』を取り付けます。
(P10 の押えの取り付けかたを参照してください)



* QRコードを読み取ることで Web サイトによくある
トラブルの質問や解決方法を掲載しています。

不具合	原因	処理	ページ
ミシンが動かない	AC アダプターのさし込みが不十分	AC アダプターをしっかりとさし込む	7
	電池を入れる向きが違っている	電池の向きを正しく入れ直す	8
	電源スイッチが「切」になっている	電源スイッチを「入」にする	7、28
縫い始めて すぐ止まる	天びんから糸が抜けている	天びんに糸をかける	23
	曲がった針を使用している	新しい針に交換する	48
	電池の容量が減っている	全て新しい電池に交換する	8
	縫い始めや段差の箇所を押えが傾いている	押えが水平になるように合わせる	40
糸が絡まる	上糸調子が弱過ぎる	上糸調子を適正な強さにする	36
	上糸調節器皿に糸が入っていない	押えを上げてから、上糸調節器皿に糸をかけ直す	22
	縫い始める前に下糸を引き上げていない	下糸を引き上げる	25
	縫い始めの糸がカマに絡んでいる	上下の糸をミシンの後ろ側で持ちながらはずみ車を手で回し縫い進める	30
	糸こまと糸こま押えのサイズが異なる	糸こまのサイズに合った糸こま押えまたは糸立てホルダーを使用する	12、13
ミシンが途中で 止まる	糸が絡んでいる	絡んだ糸を取り除き、糸をかけ直す	34
	使用しているボビンの種類が違う	正規のボビンを使用する	17
	縫い始めの糸が引き込まれている	上下の糸をミシンの後ろ側で持ちながらはずみ車を手で回し縫い進める	30
	布の枚数が多い・段差があり布が進まない	布の枚数が多いところは、はずみ車を手で回す・押えを水平にする	40
	布を引っ張っている	手は軽く添えるだけにする	31
	すべり板を取り付けていない	すべり板を取り付ける	18
布の裏がタオル 状になる 縫い目に輪が できる	上糸が上糸調節器皿からはずれている	上糸を全てはずし、最初からかけ直す	19
	押えを下げていない	押えを下げる	30
	上糸調子が弱過ぎる	上糸調子を適正な強さにする	36

不具合	原因	処理	ページ
上糸が切れる	上糸のかけかたが間違っている または、糸がはずれている	上糸をはずし、最初からかけ直す	19
	上糸調子が強過ぎる	上糸調子を適正な弱さにする	36
	糸こまと糸こま押えのサイズが異なる	糸こまのサイズに合った糸こま押え または糸立てホルダーを使用する	12、13
	針が曲がっている。針先が欠けている	新しい針に交換する	48
	糸立て棒に糸が巻きついている	糸立て棒から糸をたるませない	-
	針や糸が布に合っていない	布に合った針と糸を使用する	38
	針の取り付けかたが間違っている	正しく針を取り付ける。 針を針棒の奥までさし込んで固定する	48
	使用しているボビンの種類が違う	正規のボビンを使用する	17
	糸が古く、切れやすい	新しい糸に交換する	38
下糸が切れる	下糸のかけかたが間違っている	下糸を正しくかけ直す	17
	ボビンケースの中で糸を引いてもボビンが 回らない／ボビンが巻きかたが悪い	正規のボビンを使用する ボビンの糸をきれいに巻きなおす	17 12
	ボビンの巻き始めの糸を切っていない	ボビンの外側の糸を根元から切る	15、17
	糸が古く、切れやすい	新しい糸に交換する	38
針が折れる	布を無理に引っ張っている	手は軽く添えるだけにする	31
	布に対して針が細い	布に合った針を使用する	38
	針の取り付けかたが間違っている (針の向きが間違っている 奥までさし込まれていない)	正しく針を取り付ける	48
	上糸調子が強過ぎる	上糸調子を適正な弱さにする	36
縫い目がとぶ	針が曲がっている。針先が欠けている	新しい針に交換する	48
	針の取り付けかたが間違っている (針の向きが間違っている 奥までさし込まれていない)	正しく針を取り付ける	48
	針や糸が布に合っていない	布に合った針と糸を使用する	38
	針に通す糸の方向が逆になっている	糸は針穴に前から後ろに通す	24
下糸がキレイに 巻けない	糸こまと糸こま押えのサイズが異なる	糸こまのサイズに合った糸こま押え または糸立てホルダーを使用する	12、13
	糸がゆるく巻かれる	下糸巻き案内に糸が正しくかかっている	14

不具合	原因	処理	ページ
布を送らない 布がシワになる	布が押えの高さを超える程厚い	押えの高さを超えない布に変更する	10
	押えが下がっていない	押えを下げる	30
	縫い始めや段差の箇所では押えが傾いている	押えが水平になるように合わせる	40
	手で布を引っ張っている	手は軽く添えるだけにする	31
	上糸調子が強過ぎる	上糸調子を適正な弱さにする	36
	上糸、下糸が途中で引っかかっている	糸を全てはずし、最初からかけ直す	17
	針や糸が布に合っていない	布に合った針と糸を使用する	38
	縫い目が細くなっている	縫い模様を大きくする	9
下糸を引き上げられない	上糸を手で持っていない	上糸を軽く持ったまま、はずみ車を回して針を上下させ、針と天びんを上げる	26
	はずみ車を反対に回している	はずみ車を手前に回す	26
	針に通す糸の方向が逆になっている	糸は針穴に前から後ろに通す	24
回転が重い 音大きい	針先が潰れている / 欠けている	新しい針に交換する	48
	厚い布を縫っている	異常ではありません	-

＊ これらの現象、原因以外の不具合はミシン内部の調整や部品の磨耗による交換または電気系統の故障が原因となっている可能性があります。ご購入店または弊社サービスセンター（P56を参照してください）までご相談ください。

仕様

型式：MM-20	サイズ：W29.8 × H26.5 × D11.5cm	最大送り量：3.8mm	最大振り幅：4mm
重量：2.5kg	カマタイプ：水平全回転ガマ	返し縫い送り量：2.5mm	使用針：家庭用ミシン針（HA × 1）
ボビン：家庭用プラスチックボビン（高さ 11.5mm × 直径 20.5mm）		定格消費電力：14W	回転速度：150 ～ 400rpm
適用電源	AC アダプター	入力：AC100-240V 50/60Hz 0.8A 出力：DC12V 2.0A	
	電池	単3形アルカリ電池 × 4本	

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 【1】 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。
内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 【2】 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 【3】 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、弊社にお申し付けください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常7年間は必要に応じて弊社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 【1】 取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスを致します。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店または、弊社にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、落下による破損、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ. ご購入店または弊社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 【2】 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 【3】 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

お問い合わせまたはご相談先

ミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記弊社サービスセンターでも承っておりますのでご遠慮なくお申し付けください。



お問い合わせのメール
フォームに移動します。

株式会社 **アックス ヤマザキ** サービスセンター

TEL : **0120-405-851**

携帯電話からもご利用になれます。

E-Mail : **info@axeyamazaki.co.jp**

平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5 株式会社 **アックス ヤマザキ**
TEL : 06-6717-5851 FAX : 06-6741-7875 平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

- * 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
- * 純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記弊社サービスセンターにおたずねください。
- * ご購入頂きましたミシンは、上記の専門工場で点検修理等のサービスを致します。
- * サービスには有償修理点検と無償修理点検があります。ミシン送付前に必ず弊社サービスセンターにお問合せください。
- * ミシンを工場へ送付されるときは、必ずこのミシンの箱と緩衝材（クッション）をご利用ください。
- * 運送時、ミシンが揺れてミシン本体が破損してしまう場合があるので梱包するとき注意してください。

フットコントローラー(別売品)

*『フットコントローラー』をさしている状態で『START/STOP ボタン』は動作しません。



警告



・電源コードはACアダプターを持って抜く。
コードのみを引っ張ると、ACアダプターのコード部分が破損し、火災、感電、機器故障の原因になります。



注意

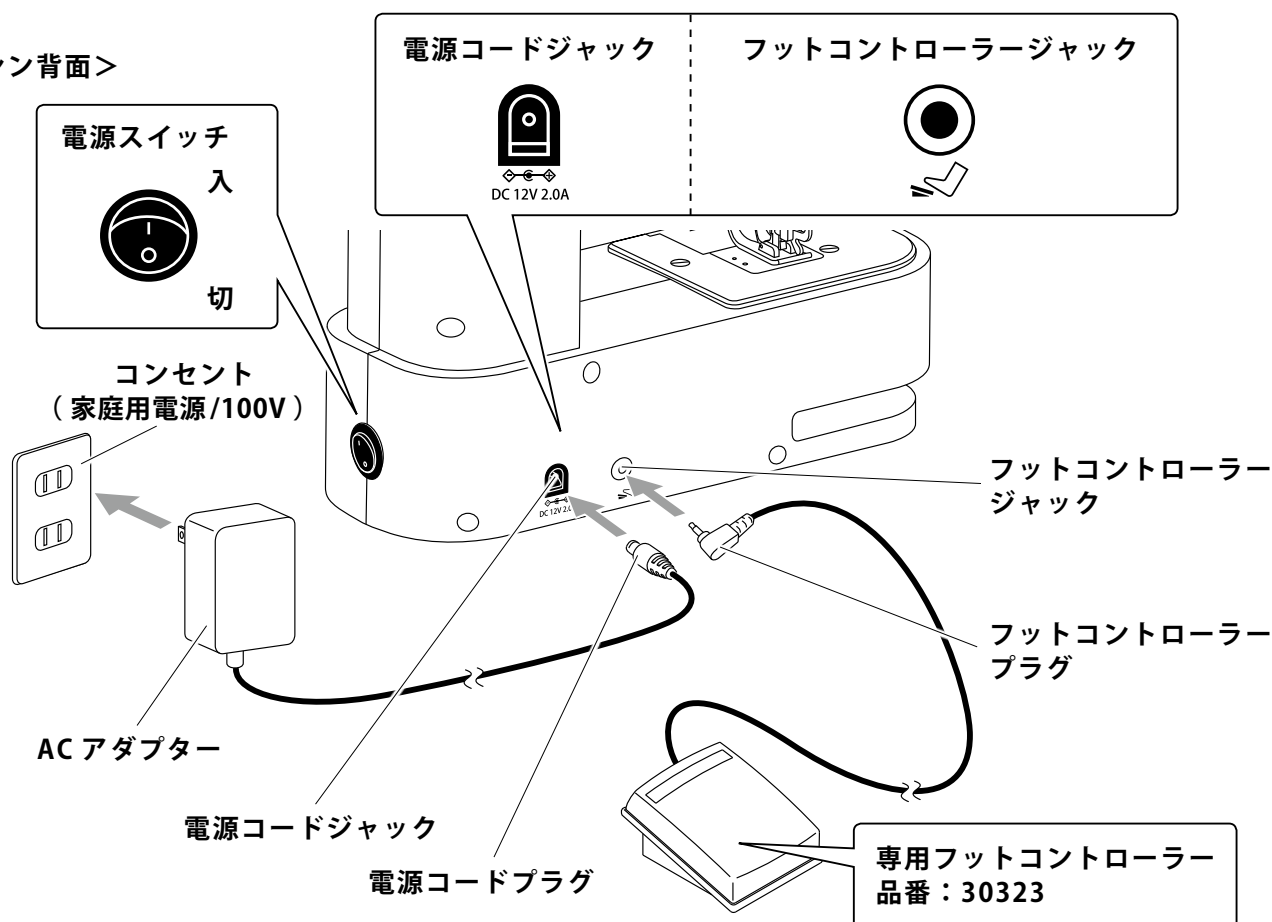


・電源スイッチを『○』にして切ります。
突然動くとケガをする恐れがあります。
・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
・水平なところにミシンを設置する。
・作業スペースを確保する。



・周囲に物を置かない。
・フットコントローラーの上に物を置かない。
・ACアダプターは必ず純正品を使用する。

<ミシン背面>



- 【1】『電源スイッチ』を『○』側に押し、電源を切ります。
- 【2】『フットコントローラープラグ』をミシン本体の『フットコントローラージャック』に確実にさし込みます。
- 【3】『電源コードプラグ』をミシン本体の『電源コードジャック』に確実にさし込みます。
- 【4】『ACアダプター』を『コンセント(家庭用電源/100V)』に確実にさし込みます。
- 【5】『電源スイッチ』を『I』側に押し、電源を入れます。
- 【6】『フットコントローラー』で操作します。

●『フットコントローラー』でのミシンの動かし方・止めかた

『フットコントローラー』を踏むと、ミシンが動き始めます。

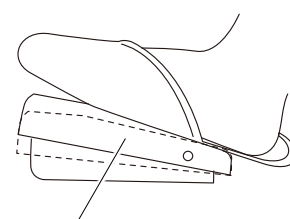
また、踏むのをやめるとミシンは止まります。

『フットコントローラー』の踏み込み加減によってミシンの速度調節ができます。

- ・ゆっくり：『フットコントローラー』を浅く踏みます。
- ・はやい：『フットコントローラー』を深く踏みます。

ゆっくり

はやい



フットコントローラー

* ミシン本体のスピード調節つまみとは連動しません。

ミシン保証書

モ デ ル MODEL		エムエム MM-20 シリーズ	機 械 番 号		ご購入後には ※印欄への記入の 有無をご確認下さい。 記入がないときは ご購入日、または お届け日が証明できる 伝票等を添付して ください。 本書は再発行 致しません。 紛失しないように 大切に保管して下さい。
※ お買い上げ日		年 月 日	保 証 期 間	ご購入の日から 1 年間	
※ お 客 様	ご住所	〒 TEL		様方	
	フリガナ ご芳名			様	
※ 販 売 店	住 所 店 名	〒		TEL	

無料修理保証に付いて

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から 1 年間）内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整または故障部品の交換を致します。
2. 無料修理保証は表記のミシン本体のみとし、針などの消耗部品は除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書をご提示してください。
4. 保証機種がコンパクトミシンまたは軽量可搬のポータブルミシンなどであるときは、そのミシンを購入店へご持参、またはご相談ください。

無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 取扱説明書に記載してある使用方法または保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 落下による破損、浸水、冠水、火災、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入店または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
4. 職業用など過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
5. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解および掃除などをしたとき。
6. この保証書のご提示がなかったとき。
7. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
8. この保証書の字句の訂正または書き換えをしたとき。
9. この保証書は日本国内に限り有効と致します。 This warranty is valid only in Japan.

有償修理について

上記の 1. ～ 9. に該当する場合、その他有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代および技術料の合計額と致します。

お問い合わせまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、取扱説明書に記載された「サービスセンター」にお申し付けください。

お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、弊社の「サービスセンター」などにお問い合わせください。
2. 取扱説明書の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行致しませんので、大切に保管してください。

AXE YAMAZAKI 【 保 証 責 任 者 】 株式会社 アックスヤマザキ

〒 544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5
TEL:06-6717-5851